



Vol. 35



— ル・クールとは —

フランス語で、魂や精神の宿るところ
を意味する言葉です。

したがって、松高精神の核となるもの
が、この生徒会誌「ル・クール」です。

目次

巻頭の言葉 考える生徒会誌を 生徒会会長 1	癖ある馬は良馬…………… 学校長 小玉兼昭… 2
特集 これでいいのか、生徒総会!! — 今一度生徒会を見直さなくていいのか… 3	
行事報告 — 松高365日…………… 11	
遠足…………… 12	
体育祭…………… 15	
文化祭…………… 20	
修学旅行…………… 27	
中国体験記—永久和平友好萬歳— 二年F組 今 範彦…………… 30	
I promise that I will return, Matt Smith…………… 32	
詩二編…………… 32	

巻頭言

考える生徒会誌を

生徒会長 久保田浩友

さて、今年度のル・クール発行にあたって、生徒会総務は一学期からル・クール委員会に例年に無い多くの注文をしました。四月の総務発足当初、松高の改革に燃えていた総務は（ウーン、過去形でなく現在進行形のはずだ！）改革の一つとして生徒会誌のてこ入れを計ったのです。その中核となったものは、「考える生徒会誌を」というものでした。過去数年来のル・クールを読み返してみると、内容にパターンが定着しているのがわかります。そのパターンを列挙してみると、

- アンケート
- クラス紹介
- クラブ紹介
- 行事報告

といったところでしょうか。そして、中身をよく分析してみても一つのことに気づいたのです。それは、行事報告はもちろんのこと、アンケートに至っても、ただの事実の報告で終わってしまっているのです。アンケートなどは、断片的であれ、確かに松高の現状をとらえてはいます。ところが、せっかくその現状を認識したのに、「ふーん、そうなの。」で終わらせてしまっているのです。これでは「現

松高のPUMP PUMP、 — EPOスペシャルインタビュー—…………… 34
--

去る九月、文化祭直前に校内放送されたものを誌上に再現ノ

生徒会報告

……… 40
○生徒会総務活動報告…………… 41
○委員会報告…………… 42
○クラブ紹介…………… 46
○試合結果報告…………… 61
クラス紹介…………… 65
編集後記…………… 77

写真提供 写真部

表紙 堀井 利子(三E)
鈴木 由理(一B)

カット 館野菜々子(三A) 鈴木 由理(一B)
馬場かおる(三A) 三好 理絵(一E)

実は○○だ。もつと△△すべきではないか?』だから××といった、試行錯誤や問題提起が欠けてはいないでしょうか?

生徒会長は、本屋で売られる雑誌などと違って、販売による利益を目的としたものではありません。高校生の僕たちが製作者であり、読者なのです。ということは、僕らにとって何にとられることもない、最も創造的で自由な発表の場ではありませんか。そこからは、高校生ならではのストレートな主張や考え、みずみずしい感性といったものがあふれ出すべきなのです。

「一冊の哲学書は百部の週刊誌よりも重い」などと勝手に格言を作り、ル・クール委員会に総務の意向を伝えました。ル・クール委員さんはその意向を十分に汲んでくれて、そのために随分苦勞をしてくれました。今年度のル・クールは、きつと大変身をとげていることでしょう。多少の堅苦しさや取りつきにくさを感じられるかもしれませんが、しかし、じっくりと読めば、あなたの心に何かを残してくれるはずです。「良薬。口に苦し」なのです。



癖のある馬は良馬

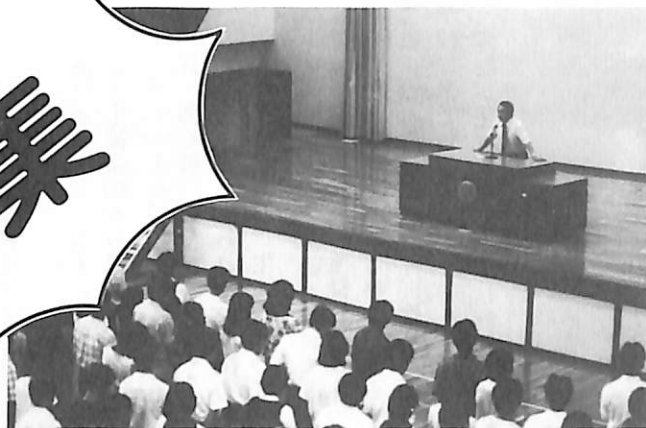
校長 小玉兼昭

「欠陥に満ちていることは、ひとつの悪であるが、欠陥に満ちていながら、それを認めようと思わないのはより大きな悪である。」

ある先達の言葉であります。人はとかく自分の欠点を認めたがらないものなのです。むしろ自分の欠点のいかなるかを知らないでいるか、またはそれを故意に認めようと思わないのが常かと思えます。人は誰でも他人から欠点を指摘されると、いい気持ちはしません。むしろ不快になります。

高校時代は、人間の生涯からみれば、精神的に最も不安定な時代といわれます。なにをしても充実した気持ちにならないで、無性に反抗したくなる時代でもあります。注意されても、悪いことだと知りながら反発します。いつも自分ばかり怒られているような錯覚にとらわれます。そこから自己防衛が始まります。欠点のある自己をさらけ出すよりは、自己弁護に急となります。それはまた、他人の欠点を見つめるに敏になることでもあります。その欠点を認めようと思わないものは、他人の欠点を容認できません。相手を責め立てることになり、ときにそれは暴力となつてあらわれます。反抗は美德ともなり悪徳ともなりますが、こ

れは反抗の精神の悪徳となる例であります。
「癖ある馬は良馬」というたえがあります。人から叱られたことのない馬は将来役に立たないという意味と思いますが、人間にはすべて「癖」があります。してみれば、人間は誰でも「良馬」ということになります。しかし人間の場合その「癖」に対する自覚がなければなりません。己の欠点を認め、他人からの批判や叱責を受け入れる心がなければ「良馬」の素質を持つていとはいえないと思います。欠点だらけの不完全な人間として自分を認識することは極めて難しいことです。ある種の勇気が必要とします。しかしそれなくして精神の成長はあり得ないと思います。本当の自分が見えてくるのは、自分が自分を離れてみることでできるときだといわれます。そのときにこそ自分の不完全な存在を認識し、そのいたならさ。その無力を自覚します。すぐれた力への感動・偉大なる力なるものへの畏敬の念はそこから湧いてくるものと思います。



特集

これでいいのか 生徒総会！

松高の運命を握っているのは生徒か生徒会か!?
今、一度生徒会を見なおさなくていいのか!?

「静かにして、クラスごとに並んで下さい。」
毎度毎度ながらの生徒総会時のうるささ。生徒総会の司会者はその中で大声を上げる。マイクを通して大きくなった声は全校生徒の前では何の役にもたない。

ピー

ツ!

笛の音がマイクを通して、大きく鳴り響く。それでもまだざわめき散らす松高生。
がまんできなくなつた先生、ついに壇上に立つ!

これが、毎度毎度の生徒総会の様子。誰も、こんな生徒総会ではたしていいのか? と思わないのだろうか。松高生のくせして、あまりにも松高をおちよくってはいないだろうか?

こんな生徒総会に対して、今回、我が生徒会誌編集委員会(俗に言われるル・クール委員会)は、すべての松高生に生徒総会のあり方を考えてもらうために、この特集を編していました。生徒総務から久保田会長と野城会計に、生徒総会に対してアンケート結果も含めて、意見をいただきました。

みなさんもこれを読んで、本当の生徒総会のあり方を真面目に考えてみてください。これ以上、松高をダメにしないように。

総務からいろいろな意見も出されましたが、アンケートにそって検討して行きたいと思っています。

(回答五〇〇)

A・生徒総会

(S・生徒会 R・生徒会誌編集委員会)

(一)、生徒総会に関心がありますか

ある——六七名
ない——四三二名

S・まあ、こんなものでしょう。

R・生徒会側から見たら、もつと関心を持ってもらいたいでしょう。

S・関心持つのも持たないのも生徒の自覚ですからね。本当は何も言われないで関心を持つのがあたりまえなんですよね。生徒総会っていうのが松高生徒の中枢なんですから。

そうなんですよね。生徒総会があつてこそ、一般生徒が唯一、松高政府に触れる事ができるチャンスなんです。これをおろそかにしたら、松高生、君達は何のためにこの学校に来ているのか。

(二)、生徒総会が一年に何回あるのか知っていますか。

一回——一名
二回——四五名
三回——一五名
四回——三名

五回——三名
知らない——四〇三名

R・年、五回も生徒会総会があるんですか。

S・体育館に集まるもの、すべてが生徒総会だと思つていて人が多いと思います。生徒総会は年二回です。

三年生も含めて、四百名もの人が生徒総会の回数も知らないことには、両者ともに大変驚きました。

(三)、生徒会が松高にとつてどんな役割を持っているか知っていますか？

(みんなの代表、お金の振り分け。無駄な役。)

無駄な役とか知らないとか、信じられません。この問題につきましては、後ほど説明していただきます。

B・決算報告

これは次期から変わると聞きましたので、後で説明していただくと思つています。今回は今までの内容で話を進めますので、頭の堅くなった三年の私とは話が合わなくなつたので、アンケート結果をお知らせしておきたいと思つます。

(一)、「決算報告」というプリントを知っていますか。

はい——三五四名
いいえ——一四六名

生徒総会に出てどのようなプリントを受け取っているのかは知っているんですね。

(二)・そのプリントに目を通していますか。

R・生徒会費つていうのは、わかりやすく言えばどんなものですか。

S・生徒会費は毎月、保護者が積み立てて中から学校に降りてくるお金の事です。ここで都費と区別しなくてはいけません。まず都費と言うものは物で学校に来るのです。たとえば、ボールが二十個欲しいと都の方に言えばボールが送られて来るのです。生徒会費というのは、お金で学校側に来てその中から買うという事です。

C・生徒会費

(一)、生徒会費つて何か知っていますか。

はい——一〇〇名
いいえ——四〇〇名

(みんなが払っているもの、クラブ予算。)

(二)・生徒会費がどのような物、事に使われているか知っていますか。

はい——一四〇名
(年間行事、クラブ、委員会)

(三)・生徒会費はだれが払ったお金か知っていますか。

はい——一八三名
(親・東京都・世田谷区)



しかし、本当は知っていないといけない事を知らない人が多いですね。生徒会や委員長、クラブの部長等の人達しか決算報告等の予算はわからないと思つています。特にクラブに入っていない人、予算の事なんかまるつきり関係ありませんものね。贅沢を言わせてもらえば、今の三年生が一年生だった時、物品項目まで書かれていくばくられた品物についての反対意見が出される等、活気があつたのです。しかし考えてみればその時も今のようにはうるさかつたけれど、今のようには無関心と答える人は少ないと思つています。その時の比較となる資料はないので、何とも言えませんが。

D・評議会について

これにつきましても、後ほど評議会と委員会から説明がありますのでアンケート結果を報告させていただきます。

(二)・評議会委員会の仕事の内容を知っていますか？

はい——一一三名
いいえ——三八七名

「(一)・あなたは元・現の評議会委員会はい——五七名

いいえ——四四三名

Dの二は、一度も評議会委員になつていなく、この仕事内容を知っているかという事を知るものですが、もちろん元・現の生徒会も知っているため、のぞくとたつた四十名しか知らないのですね。それで生徒総会では結果だけを失つてそれを認めたとみなさん手を上げるのですよ。これつてもものすごく危険だと思いませんか。もし、(学校ではそんな事はないと信じてますが)、お金を横に流されてもそれも認めている事になつていゝんですよ。学校のたつた六十分弱の生徒会総会をみくびつて、社会に出たらどうなるのですか、中曽根首相の発言問題と大差ない事になりますよ。

E・生徒総務

生徒総務の内容も後ほど説明されていますので、アンケート結果だけを報告しておきます。

「(一)・生徒会総務の仕事の内容を知っている。

はい——七四名

いいえ——四二九名

「(二)・あなたは元・現の生徒会総務委員

はい——一九名

いいえ——四八一

生徒会総務の仕事内容は、もつと知られてはいないのでね。極めて単純に考えて、評議会と生徒会総務の人達を合わせた数よりも知っている人の数が少ないのが不思議です。このアンケートの回収分は五百名分でしたが、未回収分を含

めるとあと四百名かもつと高くなると思われます。

「(三)・生徒会長の名前は？」 久保田君——一五四名

……この人数、何も言えませんが。選挙がいかにいいかげんに行われているのが伺われます。あと百名は生徒会長の名は書けるはずですが。彼を選んだのですから。こちらの方も現生徒会長と書かなかつたので、石井君と鈴木さんという名が十五名に達した事に対してお詫びいたします。

F・生徒総会の出席者について

「(一)・生徒総会の印象(百名以上のものを上げます。)

つまらない——二二四名 おもしろくない——一七二名

最低——一四〇名 やつてもしかたがない——一一一名

うるさい——一四二名 おしゃべりの場——九二名

何をしているのかわからない——二七二名

できるものなら出席したくない——一五八名

君たち、松高生でしょ。こんな事でいいのですか。

「(二)・出席者の態度についてどう思う。

無関心でほとんど聞いていない。マナーが悪い。

松高生ははじめがなさすぎる。

一応反省はしているみたいですが、本当なんでしょうか。いろいろな態度についての意見は大変多いのです。そう思っているのだしたら、どうしてそれをひとりひとり改めようとしなのでしょうか。

「(三)・出席者の態度を良くする方法は？」

内容の要点をしぼる。進行をスムーズにする。

自覚を持って生徒総会に出席する。

評議会委員会

評議会の仕事の内容を知っていますか？尋ねられて自信を持って答えられる人がこの学校に何人いるでしょうか。初めの質問に自信を持って「NO」と答えるであろう大多数の人達にも評議会の仕事を多少なりとも知ってもらいたいと思うので、簡単に仕事内容を書こうと思います。

評議会の仕事の主なものは生徒会に関するお金の監査や予算・決算の承認などです。監査とは生徒会費の使い方に不正な点がないかどうかを調べる事で、予算・決算の承認というのは生徒会総会によって立案された予算案や決算案がそれで良いかどうか審議した後、良いということであればそれは承認したという事になります。財務に関する全てのことは評議会が討議される前に評議内部にある、監査委員を中心とした財務小委員会で討議された後に評議会本会にかけられることになっています。このように評議会は内部に三つの小委員会を持っています。さっきあげたような仕事をする財務小委員会、会則改正やクラブの設立や廃止を討議する総務小委員会、議会の運営にあたる議会運営小委員会の三つです。この三つの小委員会で本会で審議する前の下準備を担当しているわけです。

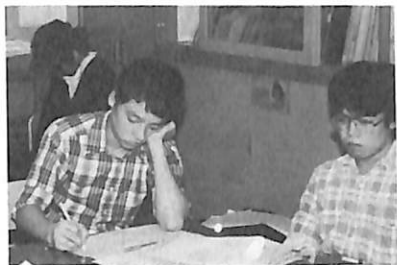
今年を知つての通り生徒会総務で生徒会則の大幅な改正が審議されています。各種規則の基である会則が改正される以上各種規則の改正も十分考えられています。

「会則改正なんか全然関係ないや。」

と知っている人、それは大きな間違いです。会則改正に伴

R・「(三)について、思う事は？」

S・自覚を持って出席する事です。多少、こちら側にも悪い点がありますが、これ以上軽くしたり楽しくするのは無理です。本来は堅いものです。生徒達が松高生の自覚や総会が松高を左右するものだという事がわかれば静かになるはずなんです。



そうですね。自覚・松高生だと自分達で納得していれば、総会がこんなになるはずがありません。まして総会は、私達一般生徒が声を大きくして生徒会に意見を言える場なんです。松高生はどういう考えで、この学校に来ているのでしょうか。ただ勉強するため、楽しく強制された行事を行うため……。自分達の学校をどうしたいのでしょうか。生徒総会に対してあまりにも無関心だという事をどう思っているのでしょうか。あまりにも無責任に思われます。

最後に、評議会委員会(と生徒会総務)の仕事内容を説明してもらおう事にしましょう。

ない規則改正案をいつもの調子で内容も知らずに承認してしまつて後でゆつくりクラブ規則を見てみたら自分のクラブがなかった、なんて思つた時にはもう手遅れです。クラブ規則に載っていない以上、クラブとは認められず当然予算を請求する権利もなくなつてしまします。そんな事が絶対ないとは言ひ切れないのです。そんなことが起こらないように前述の総務小委員会を中心とした評議会全体で十分検討はします。しかし評議会は生徒全体の代表ではありませんが、言葉を換えれば生徒の一部でしかないとはいえませんが、今回の会則改正で中心となるのは一部の生徒ではなく生徒全体でなければならぬはずで、現在の生徒総会の状態から考えれば生徒会とは一部の生徒によつてしか運営されてはいないみたいです。この松原高校に入学した以上、誰もが松原高校生徒会会員なのです。会員である以上運営に携われとまではいいません。ただ運営についての多少の知識は持つていてもいいと思います。またそれが松原高校に入学した以上義務に近いものではないかと思ひます。今回の会則改正を機会に是非生徒会会則を読んで見て下さい。そして改正案にも是非目を通して見てもらいたいと思ひます。評議会の仕事—全校生徒を代表して生徒会総務の監視や各種案件の審議を行う。ただ評議会運営の根底にあるのは全校生徒一人一人なのです。である以上生徒一人一人の生徒会参加が評議会の活発化につながるものと思ひます。評議会の仕事の内容を知っていますか？

(文責 評議会議長 今 範彦)

①クラブから生徒会へ「来年はボールが30個ほしい」と希望

← ②生徒会と接衝

← ③それを基に生徒会で来年度予算案の作成

← ④予算案が生徒会で承認される

← ⑤来年はボールが30個支給されることが決まる

ここまでがまず「予算案の作成」の段階。三学期にこの作業は行われ、来年度のお金の使い道が決まるわけです。そして次年度予算に組まれたボールをいざ使う、「予算の執行」の段階になるわけです。

⑥クラブから生徒会に「予算に組まれてあるボールが使いたい」と請求書が出る

← ⑦生徒会はその請求書を事務へ提出

← ⑧事務が業者へ発注

← ⑨業者から事務へボールが届く

← ⑩ボールは事務からクラブへ支給される

と、以上ボールが予算に組まれて、支給されるまで、ざつと書いていただけでもなんとまあ多くの手順を踏んで、ボール

次に、生徒会の仕事、生徒総会の意識等いろいろと教えてもらふ事にしましょう。

在るのか無いのか分からない、何をやっているのか分からない、と言われがちな生徒会。まるで空気のような存在です。よね。ここであえて「空気」という言葉を使ったのは「空気は在るのが当たり前みたいだけど、もしなかったら死んでしまうものだ」ということを言いたかつたからなのです。その空気も、酸素。二酸化炭素といった成分に分けることができます。そこで、生徒会も仕事も成分分析して説明していきます。さて、大きく分けて三つの成分に分けられます。

①年度予算の立案と執行

②学校行事の運営

③印刷

①、「年度予算の立案と執行」。これは生徒会の本業と云うべきものです。生徒会が生徒に最も影響を与えうる仕事とも言えるでしょう。クラブで使う備品も文化祭を行うのも全てただではありません。私達の学校生活ではあらゆる所で予算に基づいたお金が費やされているのです。とは言ふものの……予算というものがいったいどんな経過で自分達に関わっているのか知らない人が大多数だと思ひます。クラブに入っている人も、自分たちに支給される備品がどのようにして渡されてくるのかは会計係の人くらいしか知らないでしょう。そこで、クラブでのボールを例にその大まかな経過を説明してみしましょう。

がクラブ活動で使われることか。では、もし何らかの理由で生徒会の機能が停止し、予算が執行されなくなつたらどうなるでしょう？ まず、クラブ活動は全て部員による自己負担。備品を購入したり大会に参加したりするには一ヶ月数百円の部費ではまかなえないでしょう。また、文化祭などはお金がかかりすぎるので廃止……。こんな学校生活が果たして楽しいのでしょうか？予算に関する仕事はそれ程重要な仕事なのです。

②「学校行事の運営」

学校行事といえばメインは体育祭と文化祭。どちらも体育委員会と文化委員会がみなさんの裏方として運営にあたっているのですが、そのまた後にはやはり生徒会が在るのです。行事においても生徒会は「予算の執行」という面で委員会をバックアップしています。体育祭も文化祭もかなりのお金を費やす行事ですから、予算の執行なしでは委員会も動きようがないのです。また、予算面だけでなく、行事内容に関しても委員会の統制機関として様々に口ばしをつつこんでいます。

③「印刷」

これは生徒と生徒会が身近に結びついている仕事の一つです。生徒会室にはコピー機と印刷機があり、クラブや委員会の必要に応じてコピーや印刷を行っています。このコピー機と印刷機。松高生のみなさんは生徒会室に在って当然の物と思つてのことでしょう。ところがコピー機は都立校では生徒会に無い学校がほとんど。無い方が当然なん

行事報告

— 松高365日 —

遠足

体育祭



文化祭



修学旅行



ですヨ！印刷機も松高のは簡単便利な最新型。でも他校では古い「輪転機」という物を使っている学校が多いのです。とにかく、印刷設備では都立校五本の指に入ると言っても過言ではない生徒会なのです。印刷を頼んで役員がいやな顔をして（そんなことは無いはずですが……）気にせずどんどん利用しましょう！（但し私用はお断りですヨ！）

さて、以上が「空気の様な生徒会」の主な成分分析です。うーん、こうしてみると生徒会の仕事というのは予算関係の仕事で明け暮れているようですね。でも、ここでよく考えてほしいのです。一年間で生徒会の手で執行される予算の金額は約六百万円にのびります。これだけの額のお金が高校生の手で管理されてるって凄いいことだと思いませんか？実際に管理しているのは総務役員など一部の人のみで、その仕事を監査し承認する権利は全ての松高生に託されているのです。予算に限らず生徒会の仕事全てに承認を与える権利が託されているのです。その権利が発揮される場が生徒総会のはずです。ところがその生徒会の現状は……

あの無関心さではどんなメチャクチャな予算案でも承認されてしまうことでしょう。松高生であるなら誰もが「権利」という名の生徒会活動に対する強力な武器を持っているはず。時にはその武器の効果的な使い方を考えてみませんか？

評議会のみなさん生徒会のみなさんありがとうございました。

さて、みなさんの無関心な生徒総会の裏方は、こんなたいへんな思いをしているんですよ。生徒会総務の方も言っている通り、生徒会費が不在に使われても何も言えませんがね。そういう事は無いとは、はっきりと言えないのですよ。

生徒総会には、私達が手を付ける事ができる唯一の場。そんな所でおしやべりをするという事は、もつてのほかだとは思いませんか。今回の特集は、松高生徒一人一人に本来の生徒総会というものを考えてもらいたくてこのようにしました。生徒会総務の方も松高を変えようとしているのですから、一般生徒も、年に数回しかない生徒総会を真面目に考えてみて何も損はないと思います。本当はそうではなくてはいけないのですから。

生徒総会るとき先生が舞台の上に立たれ静かになるまで注意をあたえられる。高校生にとってあるまじきことです。小学生と中学生とそう変わりは無いと思いませんか。それも学年が上になるほど、うるさくなるのです。

あなたはこんな松高がこれから先、良い方向に進んで行くかと思いませんか。誰かの強い力で良い方向へと導いてくれるというのなら別ですが。

もし、あなたの心の中に松高がこのままではいけないと思うならば、まず第一に生徒総会に関心を持つべきではないでしょうか。

遠足

一年——遠足、実はオリエンテーリング——

遠足と言っているが、実はオリエンテーリングなんです。これは、私達一年生にとって、最初の大きな行事でした。私たちは高校での新しい友人達と、力をあわせてやっていくのかどうか心配でした。私達の心配は、日がたつにつれて増していきました。そしてその心配も消えないうちにオリエンテーリングの当日がきてしまったのです。

当日は、実に良い天気の中私達は、バスで藤野園芸ランドにつきました。班に分かれ、次々とスタートしていききました。私達の中には、緊張のためか、最初から道をまちがえてしまう班もありました。順調にスタートした班でも、途中で道に迷ってしまったり、近道をしようとして迷ってしまったりなどなど、それぞれの班が色々なことに合いました。失敗しても、それによって班の中の団結が強くなったり、友情が生まれたり(ちよつとオーバーク)しました。

コースの半分まで来ると、休憩所があつてそこで昼食を自分達で作って食べます。自分達で一生懸命作って食べたものは、味は良くても悪くても、とつてもうれしかったです。違いありません。こうして、心が通じあつていくのです。

私達のオリエンテーリングは、半分の所で中止になってしまいました。最初の半分で実は時間を取りすぎたのです。

(はずかしいことです。) やっぱり私達は、がっかりしましたが、こうしたオリエンテーリングの中で、他人を助け、他人に助けられる心を知ったのです。班の中で協力しただけでなく、他の班がこまっていたら、その班を助けたりして、班と班とのつながりをつくつたりしました。これによって、私達のがっかりした心も、満足感というものが生まれできました。多少のすれちがいがあつても、初め私達を心配させていた、『力をあわせることができるか?』ということは、解決出来たと思います。最後に、このオリエンテーリングを計画して下さった先生方に、感謝したいと思います。影で、きつと必死に、道に迷った班の道しるべになつたり、探したりして下さったことでしょう本当にありがとうございます。私達は、この時出来た友情や、協力しあう心をいつまでも、もっていたいと思います。



二年——歴史の町佐倉——

私達二年生は、班別自由行動で歴史の町佐倉へ行く事になった。そのため数日前から行動表の作成で忙しかった。さすが歴史の町だけあつて、お寺が多い。行く場所が決まり行動表が完成した。そして当日、期待で胸をふくらませ、朝早くから上野駅集合さすが、松高グループになつて雑談が始まつていた。二年生みんなが、話をするからうるさいうるさい。

さて特急に乗って出発、一時間半の長旅寝る者話をしまくる者トランプをする者などいろいろ。外の景色は、ビルから畑や田んぼに変わってきた。しばらくして佐倉の駅についた。これが東京のとなりの千葉県のかと、目をうたがいたくなるようななかであつた。10分ほど徒歩をして歴史民族博物館に行き、クラス写真を撮り後に入館した、うちの班は、一時間ほど見学を予定していたが、興味のある人がいなかったで、30分ほどで民族博物館を出て、班別行動にうつった。右手に川、左手に田んぼをみわたしながら、歩いていたら、かえる、ザリガニ、どじょうなどいろいろな生き物を見た。見学予定のお寺などは、閉まつていたり、つまらなかつたりで、ただ歩き回つただけで疲れた。他の班もあまりおもしろかつたという所はないみたいでした。こんな遠足だったので、帰りは大変みんなすごく疲れているみたいで、寝るために席をとり合い静かに、帰った。

この佐倉への遠足の歴史めぐりは、いい思い出になったが、若い私達には向いておらず、自然に親しむという点ではよかつたと思ひました。



三年生の遠足は、デイズニールランド

前年に引き続き、三年生の遠足はデイズニールランドでした。もう既に行ってしまった人も多勢いたので、クラスの反応はまちまち。それでも、いざ行ってみると、なんと集合時間の一時間も前から待っている人もいる盛り上がりぶりでした。

入場と同時にみんなが目指して走るのは、言わずと知れた、スペースマウンテン。人気が高いだけあって、面白いのですが、やっぱり待つ時間が長い。中には、十回位続けて乗る人もいますが、常人では三回以上乗ると気持ち悪くなります。気持ち悪くなる乗り物で一番なのは、知る人ぞ知る、アリスのティーパーティーでした。乗り方によっては、全身に遠心力を感じることが出来ます。あなたもこれで、ケボケボすることウケアイです。そのままアリスに抱きつきましよう。

次に人気が高いのが、ホーンテッドマンションでした。係員のお姉さんが一番怖いです。気配を消しているの、出口付近で驚きます。でも、立体映像がうまくできていました。

デイズニールランドで、対話を求めたい場合は、ジャングルクルーズが一番です。船長さんの乗りにこちらが乗れば十分楽しめるはず。そういう意味では、カヌーのお兄さんとも楽しい会話が出来ました。

体育祭

体育祭は一年間の中でも大きな思い出となった一大行事だと思います。

体育祭当日では上級生も下級生も団結して競技や演技する人はもちろん、応援にも力が入ったことと思います。

ここで体育祭の前後に我々・クール委員がインタビュ―した内容などいろいろ御紹介します。

☆まずは青組の応援団長さんにお聞きしました。

Q. 体育祭前の意気込みはいかがなものでしょうか？

A. 一年前からがんばっているので必ず優勝します！

Q. 青組の特徴は？

A. とても礼儀正しい。

優勝こそは逃したけれど、前から努力を続けていた上級生に高校の体育祭は初めてという一年生も加わって応援にも熱が入っていました。

ここで青組の一年生の方から頂いた体育祭後の感想を御紹介します。

青組はとても応援団が「すごい!!」といわれていたが、私達一年生は見たことがなかったのどの程度のものか見

とにかく、デイズニールランドはアトラクションがバラエティに富んでいるので、松高生もお土産を買うものも忘れるほど遊び回っていました。事前に班を決めたものの、結局好きな友達が集まってしまいました。山などとは違い、危険性が少なかったもので、それはそれで、良い結果が出たと思いました。みんな、自分が高校生だということを忘れて、無邪気に楽しんでいる姿が印象的でした。

解散しても、またもどつて、エレクトリカルパレードを見る人や、夢のようなレストランで夕食をとる人。花火に歓声を上げる人など、デイズニールランドを最後まで楽しみました。

帰りのバスの中、12時間も遊んだせいか、私は、疲れて居ねむりをしている人を多く見かけましたが、三年生には良い息抜きになったと思います。高校生最後の遠足は、きつとみんなの良い思い出になったと思います。また、あまり計画も立てずにすみ、細かいきまりもなかったもので、気軽に楽しめたのだと思いました。



当もつきませんでした。そして、体育祭当日の青組の応援団のあたりの一年生はほとんど強制的に先登に応援をやらされていた。一年生の意見は、「なんで強制的にやらなければいけないのか？」というものが多数でした。本当にその通りです。しかし、一方からみれば「強制されなくても応援をするものだ!!」と見えるでしょう。両方ともに正しい意見だと思えます。体育祭も後半にはいると、一年生も上級生も一緒に自主的に応援もおこなっていました。この光景をみていて、私は、「やっぱりこうでなくてはいいんだ!!」という言葉が心の中にありました。おわり

☆次に白組の応援団員さんにお聞きしたことを紹介します。

Q. 体育祭前の意気込みは？

A. 今年は白組が勝つぞ！

華麗なスペシャルをお楽しみに。

美しい白組に御期待下さい。

などいろいろお言葉を頂きました。とにかくすごい意気込みで、そのおかげでもありまして白組は優勝することができました。白組代表が優勝旗を受け取った瞬間、涙を流す人もいました。この感動は忘れないことでしょう。

優勝杯を手にした団長さんにその翌日、優勝した心境をお聞きました。

Q. 今の心境は？

A. うれしいです。一般の応援団じゃない人も一生懸命応援してくれたし、いつもより皆がんばってくれたし本当に良かった。

優勝とは皆のがんばりがあってこそできるものではないでしょう。

☆次に赤組の応援団長さんに体育祭前にお聞きしたことを紹介します。

Q. 赤組はこれまで三回連続優勝していますが、それにについてどう思いますか？

A. 応援団をはじめ一般生徒の力で勝ってきているのでそれなりの団結力をもっていると思う。そしてその上で、過去三年間にならってプレッシャーに負けずに勝ちたいと思う。過去三年間連続優勝は、赤組全員の支えになっているはず。

Q. フィールド競技が終ってトップの白組に100点差があるけれど、どうですか。

A. 少し差がついていて赤組としてはきつい状態であるけれどもフィールドの選手は精一杯がんばってくれたのだから、それでいいと思う。そして今度は17日当日にもう一度みんなで頑張りたい。

さて、次は白組の人の感想をどうぞ。

今年の体育祭は優勝したせいかわ組はとても生徒に活気があったと思う。ある人の話によると去年、応援団は活気があったが、生徒は無関心で同じチームなのに、ばらばらにちって遊んでいた、少しも応援しようとしていなかった。ところが今年はみんながまとまりになり応援していた。だから優勝できたと思う。

次は赤組の人の感想です。どうぞ。

五月に行われた、'86体育祭は、よい天気のもとで行われた。

私たち赤組は、四年連続Vのプレッシャーから、フィールド競技から、二位と数十点近く放され、一位とは、さらに何点か放されて、三つの組のうち最下位になってしまった。しかし、トラック競技に入ると、なかなかの追い上げを見せた。みんながんばっていた。次々に競技が終わっていくうちに、だんだんと点差はつまった。青・白組の人も、「なかなかやるな」と思ったはずだ。応援団もかなり気合が入っていて、僕は、すごくよい応援であつたと思う。午前中を終わった頃、二位にはもう一息という勢いであった。われわれ赤組の人は、午後の競技にかけていた。逆転できるとも思っていた。青・白組も、赤組に優勝させまいという気持ちが最初からあっただろう。その

Q. 今回の体育祭についての意気込みは？

A. 体育祭を成功させる、その上で勝てたら最高！

四年連続優勝とはいきませんでしたけれど、過去三年間連続優勝を胸に力を発揮できたのではないのでしょうか。

今回の体育祭、優勝した組も惜しくもそれを逃した組も上級生下級生共に競技に応援に頑張り、良い思い出になったことだと思います。



うち、「棒倒し」があり、気合が入った。そのおかげで、青・白組に連勝した。が、結局は、そのまま二位になることなしに終わった。「残念」これはきつとフィールド競技に大敗したためであろう。来年は、絶対になんとかして奪回して優勝したいと感じた。

と、この様な感想でした。

今年の体育祭は天気もよかったし、砂ぼこりが大変でしたけど……

応援団も迫力でした。他の応援団がどんな事をしているのかなか見えなかったけど、こっちに来たり、あっちに出回ったりして、ナカナカもり上がりましたネ。

応援団のことについて先生方はいろいろ疑問を持っているらしいけれど、今のままでいい気するなあ……

とにかく、今年は白組が優勝して(男泣きした人もいたっけ、感動してしまった)自力を出せなかった人も、快心の出来っ!!という人もみんなそれぞれ自分自身だけの思い出ができたんじゃないでしょうか……

おしまい。

記録

五月十七日、良く晴れた空の下で行なわれた体育祭の報告をしたいと思います。まずは成績優秀者と記録を発表してまいります。

フィールド競技

男子

走り幅とび

一C	深田 順一	5 m 39 cm
二C	松崎 和史	5 m 22 cm
三C	徳川 秀昭	5 m 05 cm

走り高とび

一D	山田 安治	1 m 60 cm
二A	松川 淳一	1 m 55 cm
三E	坂上 康成	1 m 65 cm

ハンドボール

投げ

一C	今野 利夫	35 m
二A	高塚 裕之	35 m
三C	入山 仁史	40 m

女子

走り幅とび

一D	杉内 亜矢	3 m 80 cm
二A	福岡 嘉子	3 m 77 cm
三A	中川 美紀	3 m 83 cm

四〇〇m

リレー

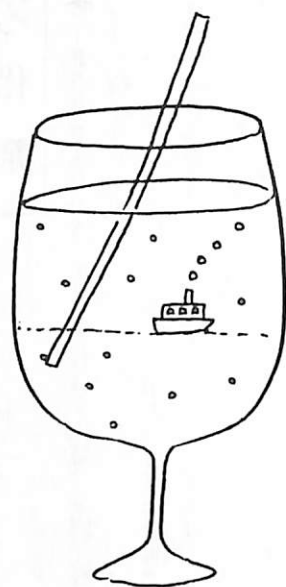
一E	1分02秒42
二F	1分0秒
三B	1分0秒90
三A	1分53秒90

スウエーデン

リレー

一C	2分27秒41
二C	2分38秒38
三D	2分19秒67

……と こんな結果でした。今年度、惜しくも名前を連ねることのできなかったあなた。来年こそ一位を目指して一生懸命努力して下さいませ。



走り高とび

二C	遠藤 啓子	1 m 25 cm
三A	太田さおり	1 m 35 cm

ハンドボール

投げ

一C	猪瀬 朋子	18 m
一C	並木 雅子	18 m
一F	白幡 幸子	18 m
二C	山崎あや子	25 m
三D	浜村こずえ	26 .5 m

トラック競技

男子

一〇〇m走

一A	岡田 明大	12秒10
二E	大石 正博	12秒10
三D	相原 章一	12秒30

女子

一〇〇m走

一D	中島真理子	15秒10
二F	久田見美和	15秒30
三C	小平 和枝	14秒50

クラス全員

リレー

一D	12分28秒75
二A	13分24秒87
三C	12分38秒48

混合リレー

一A	1分55秒
二C	1分57秒05

文化祭

年間行事の中で最大の催し物、それは文化祭。今回、野郎の自分が紹介させて頂く。

幕が上がったとたん、華やかな歌が始まった記念講演。今年は声優の日高のり子さんが来て下さった。彼女は人気アニメ「タッチ」の南の声で活躍中の売れっ子なので、アニメファンにとってはさぞかし楽しみに待ち望んでいたことだろう。又、「タッチ」という番組は勿論、アニメなんか興味ない人達にとってはかったるいという風にしか思っ てなかっただろうが、講演は結構予想していた以上に面白かった（などと言っては失礼だが）。

全体としては、日高さんのここまで来るまでの道程が骨組みになっていて、それにいろいろ面白おかしいエピソード等が付いているという感じだった。どうせアニメの話でつまらないだろうなあ、と思っていた人でも、教えられる事が話の中に交じっていて、又アニメで鍛えられた（？）彼女の巧みな話術で、飽きなかったに違いない。ごく一部、眠っていた奴らもいたが。

実をいうと自分はあまり話の内容を覚えていないが（しかしちゃんと聴いていた）。高校時代の話から始まったのだが、最初はアイドル歌手としてデビューしたそう。しかし、それからは暇な時期が続く、そして声優になったとか。だが、そこまでの苦労がすごい。短大に入学し、学校に

う事も間接的に演技にプラスαを加えていたと思う。

次に、殺し屋の橋本（雅）先生。比較的目的な存在であれど、重要な役割を占めている。真っ黒の衣装が印象に残っている。女王の水谷先生が殺し屋に白雪姫を殺すよう命じるのだが、自分はこの女王様の水谷先生の喋りの上手さに感心した。何故かそれが記憶に残っている。発声がしつかりしていて腹の底から声を出しているという感じだった。そして、遂に主役の柳先生が演じる白雪姫のご登場。その途端客席から「わー」「キヤー」「きもちわりー」…等々の歓声が上がった。別に何とも思わず冷静に観る人もいた。柳先生自身はすっかり白雪姫になり切っていたが、あのだくましい姿、太い声で女言葉の口にするのは何とも言えず不気味だった。

その後の六人の小人は、佐野先生、松永先生、馬場先生、加藤先生、三壁先生、佐藤先生の皆さん。普段、あれ程むつりと、気むずかしい顔で難解な授業をなさる先生方が吊りズボンをはいて滑稽なポーズをして子供のような言葉を言うなんて正直いつて目と目を疑う気持ちであった。声だけ聞くと普段の授業を思い出させるのだが、あの先生方がここまで変貌してしまうのかと、その自尊心を捨てた努力に異常な程の感動と少しの失望を覚えた。

さて、白雪姫が未だ生きている事を知った女王が変装したりんご売りのおばあさんは服部先生。はまり役だと思っ。一生懸命になって冗談のようなセリフを飛ばして、思わず我々は笑ってしまった。白雪姫とこのおばあさんのやりと

通いながら芸能界の仕事が続けていたのだが、両親は、学校の行く片手間に芸能界の仕事をやっているんだという風に考えていてその事を容認していた。が、大学を辞めて芸能一本にしぼるという事に彼女が決心すると親は猛反対し、特に母親が反対し、長い間冷戦状態が続いたそう。彼女にアニメの話が入った後もいろいろな面で苦労したそう。元アイドル歌手という看板をとり外すまでが大変で、それにその世界では誰も何も教えてくれない。何度も何度も恥をかき、失敗した。しかし、恥をかく度に一つずつ物事を覚えていったと話して下さった。彼女は嫌な事があると、沢山の友達に話し、そうすると嫌な事もそれほど嫌でなくなるのだという。又、好きな事があれば、それを続けると良いとも話してくれた。しかし、一番印象に残ったのは、親の言う事に耳を傾けて、友達に相談できないことは、親に話すと良い、という事。アニメを好きな人のみならず、興味のない生徒や大人の方々が聴いても、為になったのではなからうか。

次に、自分は先生方の劇「白雪姫」を、言うまでもなく劇の専門的な面ではなく、先生方がいかに楽しく面白く振舞うかと期待して拝見した。

最初に登場したのは、鈴木先生演じるナレーター。重々しい口調で、前置きが少々長いという気もして、舞台の雰囲気は漸進的に高めていった。その後、女王の水谷先生、鏡の岡野先生のご登場。本来のストーリーにユーモアな面を加えた台詞と演技。このお二人は国語の先生とい

りにも注目するものがあり。しぶとくてなかなか死のうとしない（？）白雪姫には苦笑を誘う。

そしてやって来ました窪田先生扮する王子様に、教頭先生演じる家来。王子様には観客が「かっこいいー」と感心していた。家来は、一瞬。誰が演つてののかと思つた。

おっと忘れてはならぬ、ほんの少ししか登場しなかったのだが、ふくろう役の磯貝先生、それに殆ど、ずーっと立ちっぱなしで何も台詞がなかった杉の一杉先生に、山の山崎先生…本当に御苦労様と、先生方に拍手を送った。

劇が終わった後、某先生に劇を観ました、と言うと「見なきゃ良かったのに。めちゃくちゃだったでしょう」と。

又違う先生は「演劇は専門ではない」と仰っていた。欲を言くと、セリフのやりとりなど、ちよつと残念だなという箇所もあったが、忙しい最中に練習をして、その成果が実つたのではないかと思われる。我々に楽しいひとときを下さつて、どうも有り難うございました。

次に、自分は静かな憩いの場所を求めて展示会場を幾つか覗いたので、それらを題材に記事を書こう。

美術室へ行くと、美術（選択）と書道（選択）の作品がずらりと展示してあった。美術の方では、プログラムの表紙用に描いた作品が所狭しと貼ってあったが、やはり採用された作品が一番光っていた。（たしか印刷だった気がするが）他にも、意欲的な作品が沢山あったが廊下側に展示されていた、三年生のデッサン等に感心した。三年生は選択しただけあって、やはり粒揃いであった。

書道の作品では、「各学年選択者の中から各一名の代表者」が制作したという条幅を見たが、非常に上手だった。知っている人がその中に交じっていたりもして、こんな一面もあるのかと感心した。他に、一年生の作品や二年の色紙など、なかなか良い物が見られた。

美術室からはさほど遠くない所に華道部の展示会場があり、一瞥してきた。

場所は会議室であった。真っ白な布がかかったテーブルに、色とりどりの華やかな花達が、我こそはと競いあっているかのように陳列されていた。非常に静かで落ち着いた雰囲気、気分が和んだ。

ここのお客さんは一般の方々が多かった(特に女性)自分の様な情趣を解さない人にも楽しめるので、もつと松高生が見に来ればいいのと思った。若い人、十代あたりの学生さんがあまり見当たらなかったからだ。受付の人が比較的感じが良かったのが印象的。

それから、被服室の家庭科のホームプロジェクト作品展へと思わず足を運んだ。ここは毎年意欲的な作品が並んでいて、楽しいし為になるからだ。

ここへ来るお客さんは、生徒達に交じって一般の人も多かったという感じだ。家庭科が好きだという女の子がやはり多いのか、積極的に取り組んで、試行錯誤したという様子が伺われた。細かいものから、ビッグで苦労しただろうなあ、というような洋服までいろいろだった。

その後、喫茶店などを取材した。娯楽・喫茶は三年生が

中心だが、いろいろ回ってみて、一番お客さんの入りが好調だと感じたのは、三Aの「cheep-a-pa」であろう。これで「チーパッパ」と読む。

他にも三E「tea room」等も見したが、このメニューは「ゴアラのマーチ」というスナック等や、コーヒ、ポッキー、ポテトチップス等のスナック類というわけで、ショートタイムが付いている。その隣の三Dへ行くと、ここは駄菓子屋に喫茶店が合わさったという構造。メニューも、駄菓子とスナック、飲み物。駄菓子屋の主人は「商売繁盛していますよ」とは言うが、客の入りは今一つといった状況。

さて、三年A組を見てみると、室の中は超満員で、食券売場に列ができる程。そのわけは、メニューが、ケーキやあんみつ、ところてんからラーメンなどのお食事類まで、種類がバラエティーに富むことだと思う。加えて、天井に張りめぐらした真っ白な布の上に浮かぶ風船がノスタルジックな雰囲気をもたらしている。ムード作りが良かった。「こんなに繁盛するとは思わなかった。」とは、ウェイターやウェイトレスに東奔西走していた人達の嬉しい悲鳴。

喫茶店ではないが、三Bの迷路は、思っていたより造りが複雑になっていて楽しかった。途中、教室の中から外へ出る所があり、丁度雨が降っていて少々濡れてしまった。苦労して通りにぬけると「お疲れ様ー。飴をどうぞ」と、三年B組の係のお姉さんからキャンディーを頂いた。運動(という程でもないが)の後の甘い物は旨い。文化祭が終わり、迷路を男子生徒が派手に破壊していたのが愉快。

そして音楽室へ行くと例の如くバンドがやってるわ。時間の都合で一部しか観られなかったが、(ここに載らなかったバンドの方々、ご免なさい!!)一日目の音楽選択の演奏を少し観たが、選択しただけあってなかなか上手だなと思った。曲目は小林明子の「恋におちて」やレベッカ「フレンズ」Mayby Tomorrow等。照明さん達の協力もあってムード満点。

バックの音も大きかったが、ヴォーカルもなかなか聴きごたえがあった。

お客さんの中にはティーンのみならず年配の方々も幾人か交じっており、皆それぞれに聴きほれていた。それに、曲目もみんななじんだものが多くて、良かったと思う。賑やかなロックバンドとは一味違ったグルーブだった。トランペットが印象的だった。ただ、コーラスの声がリードヴォーカルに完全に押されてしまった。全体としては、他の有志バンドより一般的だと思う。

その後、雰囲気は180度変わり、三年生の男女混合バンドの「THE JOTARO」登場。人を威圧するかの如き超奇抜なメイクに服装。音楽もやはり派手な印象を受けた。ヘヴィメタの匂いがした。

演った曲目は、Sex Pistols、ばちかぶり等の「Bodies」や「Hello I Love You」「稲荷」「Born To Be Wild」「No Feelings」「ONLY YOU」等々その他沢山。このバンドの前の音楽選択の人達が演った時の客層とは、大幅に変わってしまい、専ら熱狂した若い人ばかり。一日目だからか、客の

入りは今いち。

他の人に感想を求めたが「かっこいいーとは思ったが、私にはわかんない。」という類の意見の反面「ヴォーカルがすごいパワフル!」「みんなで踊ってた。」等。

「GUERRILLA」という俗に言うヘヴィメタバンドが良かったというお客さんの声を耳にし、幸いにもバンドのメンバーの一人に少々話を伺う事ができた。彼は歌うたいだったが、歌はめちゃめちゃだったとか。「お客の反応:まあまあだったよ。歌なんか歌わなかった。のどがガラガラ。みんなのつてくれてよかった。」

「DEATH WISH」「WINGS」「宣戦布告」や「MAD HOUSE」「アクシデント(皆殺し)」等演奏。メンバーの一人のこの人は「ハウス」のつづりを書くのにも不安げな表情。英語は弱いとみた。「ヘヴィメタ」らしく、髪の毛びんびんでも派手。ドラムスがかつこよかった!

それから、二目に演奏したバンドで、良かったものの一つに「Schweppes」というバンドがあった。(このバンド名は辞典にないので何うと、ジューズの名前だとか)。

演奏した曲目は、なかなかメジャーなものも交じっていたという感じ。尾崎豊の曲が中心で、一番有名で、最高に盛り上がった曲といえばハウンドドッグの「ff(フォルテシモ)」か。

最初に「17歳の地図」、以下「マイホームタウン」「愛の消えた街」等と続いて、七番目の最後の曲が「ff(フォルテシモ)」その後、当然の様なアンコールの声の後、ヴォ

ーカルが「一番の心配はアンコールが出るかという事だった」と言って歌ったのが「ハイスクールロックンロール」であった。

ヴォーカルが、歌めちやくちや。はしってた。PA（機材の事）が悪かった！後夜祭ん時も、演奏したんだよ。（後夜祭の時は）ヴォーカルは踊ってたけど…等、メンバーの方々自身の発言。なかなかかつこ良く、比較的真面目なバンドだったが、インタビュ어의時の態度が非常に愛想良く、大感動！ライブの後半にヴォーカルの多鹿くんが叫んだ「ここはディスコだよー」の言葉が耳を離れない。

バンドの中で、一番盛り上がったのはやはり「1986 YAMA GUCHI BAND」だろう。

「RADIO MAGIC」に始まり「スキップビート」「色あせたシネマ」や「MORNING MOON」「HE」「SWEAT & TEARS」等演奏。文化祭の一番最後のバンドであり、又メジャーな曲が多かったのも超満員になった理由だろう。ヴォーカルがなかなかパワフルだった。バンドのリーダーの方が言うに「あいつ（ボーカルの方）は上手かった。ありやプロになれるよ。」と、ものすごい賛美のしよう。メンバーの方々皆それぞれ、良い意味でしゃばっていた感じ。後半は、椅子に座っていた観客が皆椅子の上へ乗り、総立ちでものすごい盛り上がり（しかし後ろの人達が何も見えなかったではなからうか）。若い人達に混じって静かに手拍子をとっていた中高年の女性が微笑を誘う。

稚拙な面も見られるが、どのバンドも熱気があった。

輝松祭と他校の文化祭との比較

毎年このル・クルールの文化祭のコーナーで扱っていたように、どのクラスがどういう事をやっていたと、いうような物では発展性がないので、今年は他校の文化祭（桜華祭……桜町高校・柏祭……玉川高校・深沢祭……深沢高校）と比較してみました。

出し物（クラス）

桜町……喫茶店 3

ゲーム（迷路・お化け屋敷等） 8

演劇 1

映画 3

出店 2

玉川……喫茶店 2

ゲーム 2

演劇 1

映画 1

出店 4

深沢……喫茶店 5

ゲーム 5

演劇 0

映画 1

出店 7



松原……喫茶店 3

ゲーム 3

演劇 9

映画 1

出店 0

これらの出し物を比較してみるだけでもその高校によって特徴があると思います。出店については、玉川高校は、玄關から、焼きそば、お好み焼きを売るという形式をとっており、衛生的に少し良くないのではと考えさせられた。深沢高校は中庭を出店に使い、金魚すくい・おめん・アイヌ・団子などいろいろな物を売っており、文化祭というより近所の祭のような盛り上がりを見せていた。桜町高校は、娯楽的な物が多くどこをみてもお化け屋敷・迷路等があり奇声が聞こえていた。それらに対し本校は、人に見せる演劇的なものが多くて出店がないという三校とは又一風変わっている。しかし、演劇のようなものは、練習をしなくてはできないのでクラスの団結力を高めたりするには、最高の出し物だと思います。

文化祭を終えて

輝松祭を終えて、これは将来考える必要があると思った点がありました。それは、校内放送についてでした。放送をしてもらいたい事があって放送室に行っても、個人的な呼出しは放送してないと断られたのに、劇を行っている途中に個人的な呼出しが入ったりしました。放送は劇の上演中に入ったりすると場を白けさせてしまうので困るが、放送が必要な時もあるので、文化祭中の放送については皆に知ってもらう必要があると思いました。

輝松祭の結果

- ▼ 最優秀賞 二年E組
- ▼ 演劇部門 二年C組
- ▼ 展示・娯楽部門 二年D組
- ▼ 特別賞 有志バンド
- 一年D組、職員エーデルワイス



修学旅行

北陸編

私たち二年生（日本海コース）の人たちにとっては、この旅行は一番の思い出となったことでしょう。

十月二十八日（一日目）朝七時に東京駅に集合、十時四十分米原着（ここで奈良コースの人たちと分かれる。）バスに約二時間揺られ日本海沿岸を走り昼食、そこからバスでさらにゆきかなり山に入った所に『永平寺』があり涼しい所である。

ここから悪夢が始まった。

あらかじめ厳しい所と聞いていたが、最初の説明を聞いただけで大声で怒鳴られる場面もありほとんど全員が萎縮してしまい黙りこんでしまった。そして元氣もなくなってきた。

その次にやってきたのが食事であるがこれも信じられないくらいの少ない量の食事です。その上、食事の前と後に、合掌しながらはしを手にはさんで「いただきます」「ごちそうさま」を言った。それはまだいいにしてもそのあいだの三十分位の正座がつらかった。

その次に、間髪いれずに座禅が待っていた。しかしこれは下にぎぶとん（これを永平寺では「ぎぶ」と呼んでいた。）をひくので足はしびれるけど、食事の時ほどではなかった。

しかし、座禅なので、お坊さんに、姿勢を直される人、また棒のような物でたたかれる人もいた。その後に、映画を観て悪夢の一日が終わった。しかし就寝といっても九時なので、誰も眠れる時間ではありません。しばらくはさわいでいました。翌日の起床が三時二十分にもかかわらず。

三時二十分はつきりいって真夜中です。朝のお勤め・座禅がまたあり、いろんな場所の掃除までさせられました。また食事があってもうこのへんは氣力です。でもだれてもきたようです。僕は正座をほとんどできなかった。

これで永平寺を出て北陸方面の寺をいくつかまわり、京都の旅館で奈良コースの人と合流した。

僕は声を大きくしていいいたが、この旅行は、最初の一日泊は修学旅行でなかったような気がするが、絶対に一生の思い出になることは間違いないと思うし、絶対にこんな体験はできないだろう。いやしたくない。いやー疲れた。

奈良編

なぜ奈良にきたのだろうか？バスに乗り、着いた場所は、山奥でなにもない。家が見えず道があるだけ、20分歩くと旅館に着いた。入館できるまで二時間もある。一本の道をひたすら歩き寺や神社を二、三個見たが、時間がある。

みんな旅館の前に座っていた。やっと入館して、風呂に行ったが、風呂は狭い、やけに時間がかかった。

食事になる、鍋物は、豚肉しか食べれない。ご飯があまりのおかわりさせられた。外出時間になったが、見る所がない。葬式二軒やっていった。店は、酒屋しかやっていなかった。消灯となる。暖房が壊れている。寒かった。

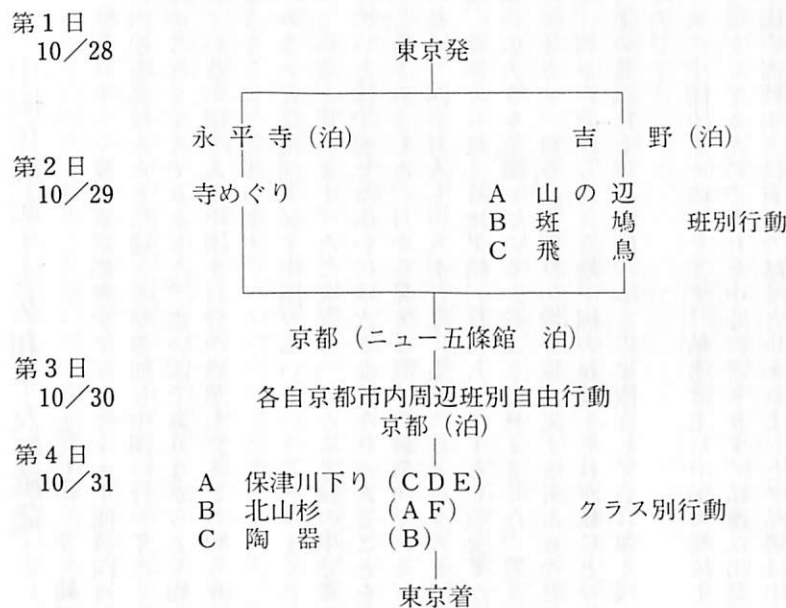
次の日、六時に起こされる。みんな風邪をひいていた。朝食は、コロッケとみそ汁と山菜とミカンとヨーグル、永平寺とたいした差はない、みんなおかしを食べていた。

バスに乗り京都までは、自由行動で、私の場合、飛鳥に行つて、自転車周った。雨が降りそうで寒い。人と会わない奈良は、人口がないのか？昼食を食べる店がない。

寺がなく古墳ばかりしかなく、つまらない。ジュースを飲みたくても、販売機は、くもの巣がはっている。途中までくると、中学生が、多数いて、身動きがとれなく、方言を話している。奈良はつまらない。



働きたい。もう疲れが最高点にたっているが、旅館に帰っても夜は寝られないだろうし、後1日体がもつか心配になってきた。修学旅行とは、体力の限界に挑むものか？と疑わしくなってきた。



京都編

修学旅行二日目の夜(10月29日)から北陸コースと奈良コースが合流した。奈良コースの人達は、五時ぐらいいには旅館に着き風呂に入り部屋でくつろぐこと約二時間。北陸コースのバスが、旅館のある鳥丸五条に到着しにぎやかな声が聞こえて来た。部屋のドアがあき疲れた顔をして連中が入って来た。荷物の整理を終え食事をし就寝、ねむたいのにもかわらず、ドアが開く音に気をつけ話はずむ。

いかにも修学旅行、真夜中三時、六時起床朝はつらい。朝六時、目の下にくまをつくらせて起きる。今日は、京都をいろいろ歩きまわるのだ。朝食を食べ出発。まずは、竜安寺、きれいな石庭をバックに一枚パチリ。さすが京都のお寺と感心させられた。その後もういくつかお寺をまわり映画村へ入場するといきなり変なおじさんが寄って来て女優さんといっしょに記念写真に写ってくれないか、写真は買っても買わなくてもいいからといわれ写してもらい、結局一枚買わされてしまった。それから、時代劇の撮影を見たり銭形平次の家を見たりした。この映画村には、小さい子も多いが、高校の修学旅行で来ている人も多く見学場所が広いので、ひまをつぶすには最高の場所だと思っています。二時間ほど見学した後旅館へ向かった。この日の感想としては、お寺の入場料が意外に高いので数多くまわると知らないうちに減ってしまうので私としては、映画村を高く評

中国体験記——永久和平友好萬歳——

二年F組 今 範彦

昭和六十一年夏、東京都青少年洋上セミナー団員四百名の内松原高校からも私達三名が参加し中国へ行ってたくさんのお話を学んできました。近い国でありながらよく知られていない国である中国を自分の感想も交えてお知らせしようと思います。

みなさんは地図で見て中国が広いということはよくわかっていてと思います。ただ実際行ってみると頭の中で考えた広いと体で感じた広いには大きな隔たりがあることを思いしらされました。月から見える唯一の建造物である万里の長城、四十万人の人が一度に集まるといふ天安門広場、車窓から見える地平線、目に入ってくるもの全てが中国の広大さを象徴しているかのように見えました。考えてみて下さい、自分達の周りに地平線が見える所あるかどうか。列車の窓から見える地平線の連続——それが私にとって万里の長城にも勝る中国の広さの象徴として心に強く残ったのです。

次に中国の人々のことです。私達は主に中国の高校生と交流をしてきたのでそれを中心に書きます。私達は出発前中国の高校生とは英語で話せといわれました。私達は中国の高校生も自分達の英語力と同じ位だろうと思っていました。ところが……むこうの高校生は英語がペラペラでした。つたない英語で何才から英語を学んでいるか尋ねると六才からということでした。中国では徹底した英才教育がとり

いれられていて日本の東大にあたる北京大学に入るためには六才位から勉強を初めなければならないそうです。それに日本では大学は勉強の場というより就職への過程にしかすぎないような気がしますが、中国ではあくまで専門的なことを勉強する場のようです。中国は知っての通り社会主義国である為、仕事は自由に選択できず学歴等によって国が決めます。そんなわけで中国の人々は少しでも高い教育を受けようとして熱心に勉強するそうです。勉強意欲は日本なんかよりずっと上のようだと思います。書き忘れていましたが個人の英語力がむこうの小学五年生程度だったのには強いショックを受けました。職業選択の自由がないというのは前述の通りですが、自分としてはどんな仕事をしたいか尋ねたところ、「国が私に与えた仕事」という答えが返ってきたのには驚かされました。それと同時に、こんな簡単な会話の中に資本主義と社会主義の違いの一端を見たような気もしたのです。

中国の人々の生活は日本とそれ程違いはありませんでした。電化製品はかなり普及していて街にはビデオデッキが売られていました。ただ電化製品にはほとんど私達の見慣れたマーク（SONYとかNEC）がついていました。中国の人に日本製品の感想を聞いたところ「中国の製品よりずっと良いが高い。」と言われました。参考までにその家庭ではTVをはじめカセットデッキ・テープ・冷蔵庫などが日本製でした。そんなわけで家庭生活においては日本との違いはあまり見られませんでした。ただ交通機関に関

して言えばやはり日本に比べて多少遅れているような気がしました。知っての通り自転車やたら多く車はそれ程多くありませんでした。又バスの横に走っている馬や日本ではほとんど見られなくなった三輪の車（知ってますか？）や蒸気機関車（SL）には驚かされました。車もやはり日本製がほとんどでした。街には建設中の高層ビルがいくつもあり、急速に発展途中の中国を象徴しているかのように目にうつりました。

私達は出発前に「バスに石をなげられることがある」と聞いていました。この言葉からわかるように日本と中国の関係はつい一昔前まで最悪の関係でした。日本人が中国人に行った数々の残虐な行為は消しようのない物として中国人達の心の底に残っている筈です。それが私達の乗っているバスに石を投げるといふ形で表面に出たとしても何の不思議もありません。しかし旅行中に日本人ということの不愉快な行為を中国人からは一度もうけないどころか、すごい歓迎にびっくりさせられた程です。又中国の高校生に日本のことを聞いたところ「是非一度行ってみたい国」とこたえてくれた人がたくさんいたのには感激しました。中国の学校を訪問した時にむこうの学生が毛筆で「永久和平友好萬歳」と書いてくれた紙を自分の部屋に貼ってあります。これからの日中関係が自国の政治や社会体制を超えて友好を深めていけることを希望すると共に、実現の為にこれからの時代を背負う私達の努力が必要不可欠である、ということを中心として体験記をしめくくろうと思います。



森—Witch in the Forest

妖精が逃げ込んだ森はとても深かった
追いかけて行った僕はもう帰り道がわからない
森の中はとても静かで 動物たちの
話し声の奥に 森の魔女の声さえも
きこえてくるようだった
この森には魔女がいる
小さな頃からそうきかされてきた
僕は信じていないけど 何故か大人たちは
僕らを森へ行かせてくれなかった
妖精はたよりなげに飛んでいる
あまりはかなくて 目を閉じた一瞬に
消えてしまいそうな気がする…
見失ってははいけない ただそれだけを
考えて 僕は妖精を追いかけた
森は深くなり 木はさっきより枝が
伸びているようだ
そして妖精を追いつめたとき——

——僕は追いつめられてしまった……
立ち止まると僕のまわりの木は
どれも手を伸ばして
僕をつかまえようとしている
逃げる道はもうどこかに消えてしまった
ようだった
昼なのに暗い森 魔女が住むこの森
——僕はいつの間にか小さなウサギに
変わっていた……

——森の中には魔女がいる
だからぜったいにこの森には
近づいちゃいけない——

by Kasumi

I promise that I will return.

Matt Smith

I wish I could stay in Japan much longer, but I must go home I promise that one day I will return. Mat subaru High school is like my second home I will never forget the people at Mat subaru High School God Bless you all.

と、英語で書かれた右の文は、交換留学生としてワシントン州のシアトルから松高に來たマット・スミス君が帰る前の日に書いてくれたものです。彼は六月二十三日から約二週間滞在し、英語の授業に参加したりしたので話した事のある人も多いはずで

下の写真は七月二日に体育館で行なわれた歓迎会で、フォークダンスを楽しんでいるところです。

住所「Matt Smith
2812-194-PL-SE Kent
Wa 98042 USA」



夢はカゴの中

夢はカゴの中 抱きしめても ふれられない
ガラスのカゴの中 ぐだけ散って逃げてしまう

夢はいつまでカゴの中？
扉をあける勇気を出して
さあ誰かが来る前に

夢はカゴの中 抱きしめても ふれられない
ガラスのカゴの中 夢までも遠く通る…

夢はいつか逃げようとする
他の誰かが扉をあけて
その時君の心が凍る
今、君の手でナイフが光った…

夢をつかまえようど人はいつか手を汚す
それがあたりまえの事のように
夢をこわしてゆく

夢はカゴの中 抱きしめても ふれられない
ガラスのカゴの中 ぐだけ散って逃げてしまう

歩み

佐藤永子

それは、クレヨンでおたまじやくしを塗り潰すことから始まった。白と黒の冷たい鍵盤をどこかきこえない十本の指が、我無者羅に叩いたその瞬間がドレミファ……との出会いであった。時にまかせて、七つのパズルのように組み合わせることの喜びを知ったのも、そう昔ではない。そいつに似合う服を着せてやれば何と世界にひとつしかないという歌ができた。当時、自作自演街道マラソン大会に出演中のランナー達の存在は、私に多くのものを与えてくれた。そして松原高校入学後、それがかなりのエネルギーとなり一九七八年のステージで爆発した。十五分足らずの短い間、火の粉を舞い上げていたが、スタッフ・お客様・先生の応援も虚しく、ついに燃え尽きてしまった。後に残ったものは、すがすがしい感動と暖かい拍手のぬくもり。その日、赤や青のライトをまばゆいばかりに浴びていた、ヒーロー達の名は、音楽。(ル・クール27号より)

～EPOスペシャルインタビュー～

ヒット曲がある。最近「太陽にPUMP、PUMP、」がコーラ昭和61年夏のCMソングに使われたり、ビクタービデオテープのCMではEPO自身も出演している。



61年度前期生徒会総務と文化委員会は、「とにかく今年も文化祭を盛り上げよう！」という主旨のもとに、四月から様々な企画を試みました。その一つとして、松原高校が誇る偉大な卒業生の一人EPOさんから文化祭へ励ましの言葉をいただこうではないかとスペシャルインタビューに成功したのでした。

時は昭和61年6月27日。所は初台のレオ・ミュージックスタジオ。コンサートツアーを前にして、リハ・サル等大忙しにもかかわらず、EPOさんは僕達のインタビューに快く応じてくださいました。

去る9月12日にお昼の校内放送で放送したその内容を、ここに採録します。

と、その前に……まさかとは思いますが、EPOさんのことをよく御存じでない方のために。

まずは、Introduction of EPO、

本名……佐藤永子(本校53年度卒業生)

生年月日……昭和35年5月12日

松高時代から友達とバンドを組み、文化祭やコンテスト等で活躍。昭和55年本格的にレコードデビュー。持前の才能で、現在日本ポップス界屈指の女性シンガーソングライターとして活躍中。「土曜の夜はパラダイス」「う・ふ・ふ・ふ」「くちびるヌード・さかせます」など数々の

それでは本編・スペシャルインタビューの始まりです。

EPOが語る松原高校！

まずは自己紹介をお願いします。

EPO 本名は佐藤永子と言います。生年月日は昭和35年5月12日。出身地は東京で、血液型はO型です。

今年の文化祭のテーマは「ほーら人間がおもしろい」というのですが、このテーマについてひと言お願いします。

EPO エーとね、私の新しいLPs「PUMP、PUMP、PUMP」っていう中に「理想のスタイル 悲しき個性」という曲があるんだけど、その中で歌っているのは、今年はこの曲がいぞとかね、流行があるとみんなそこに流れこんで行って、それでその流行を自分の物にした時点でみんながみんな同じになってしまう、個性が無くなってしまう、という歌なんです。凄く私思うのは、流行や新しいものにとびつくことによって、自分が本来持っている良さとか、個性とか、そういったものが失われていくのは凄く悲しいことだなあと、今年この曲を書いたんだけど、そんなのもあって、今年の私に近いテーマだなあと感じますね。

——次に、学校行事で最も思い出に残っているものは何ですか？

EPO やっぱり体育祭ですね。女子の場合、応援合戦でいうのがあって、それぞれ赤・青・白の組に分かれて、選曲をしてその選曲に合わせて振りつけをして、ダンスを作っていくっていうのがあったんだけど、それがすごく楽しかった。体育祭のシーズンになると、ちよつと遅くまで学校に残れるじゃない。それで、あの広い校庭で応援団が集まって練習をするんだけど、だんだん暗くなってくると照明も灯けてもらえたりして。その時だけ、学校が普段の高校生活とは違う非現実的な世界だったのね。あの瞬間は。だからすごく思い出に残ってる。

文化祭で思い出に残ってるのは、私は演劇部だったんだけど、その当時の体育館は今みたいな美しいのじゃなくて、ちよつと見たら体育倉庫っていう感じのおんぼろの体育館だったのね。劇にとって一番大事なものは幕なんだけど、その幕もメチャメチャ汚くて古かったの。私たちはすごくシリアスな劇をやっていて、ラストシーンでみんながストップモーションになって幕がゆっくり下りて終わるっていう段取りだったのに、幕が古いものだから下りる途中で止まっちゃったのね(笑)。みんな静止してるのに。それで、平行に止まればまだいいんだけど、斜めに止まっちゃったのね。そのうちみんな耐えられなくなっていけいれんしだしちゃったりして。それでドッチラケになっちゃったっていう

う思い出があるの。

それから、私は「ニコニコセッションバンド」っていうバンドを組んだの。私たちのバンドはね、一年生、二年生、三年生とそれぞれメンバーがいたのね。だからすごく人気があって、バンドが出る順番の私たちはとりだったの。で、よくある事なんだけど、前のバンドが頑張るすぎちゃって私たちの時間がすごく少なくなっちゃったの。それで予定してた半分もやれなくてね。でも、支持率が結構あったから幕が下りちゃった時に「もつとやれー！」ってみんながブーイングをとばしてくれて、それがすごくうれしかった。これはすごく思い出に残ってますね。

——学校の中で一番好きだった場所はどこでしたか？
EPO (しばし考えて) 美術室ですね。というのは、選抜授業が私は美術だったんだけど、一番自分らしいことを発想したりとか、美術だから物を作ったり描いたりするでしょ。そんなに勉強は好きじゃなかったから、一番自分に合ってる、リラックスできた場所だった気がする。よく曲とかも書いてたし。好きだったなあ、美術室。

——松高のここが好きだった、ここが嫌だったというのは？

EPO 私たちの代の松原高校は、わりと可もなく不可もなく感じてだったの。学校の校風が。すごく勉強が

嫌だった所なんかは……

できる人も何人かはいただけだけど、わりと平均的だった気がするのね。いわゆる「つつぱり」って呼ばれる不良もいなかったし、いい子ばかりだった気がする。でも、高校生の15、16、17才くらいの時って、何かに反発したりとか、「若い」っていうエネルギーがいちばん形になる時期だけれど、私のいた頃の学年ってみんないい子だったのね。だから、その辺が良くもあつたし悪くもあつたといえのはあるんじゃないかなあ。

近くに日大桜ヶ丘ってあるでしょう。あそこの女の子ってみんなおしゃれなのね。美人が多くてね(笑) かたや松原の私たちはわりと粗野な感じがあるわけ。普段着でしょう。ある程度のおしゃれは楽しめたけど、学校だしそんなに派手にはできないし。世田谷線を降りてから学校まで道をずつと歩いてくると、日大の子はパーマピンピンしてるし、ヘアダイしてる子もいるでしょ。髪の毛が赤い子もいたり。お化粧をしている子ももちろんいたしね。それと、あそこの制服はセーラー服の上の丈がすごく短くて、結構色っぽいのよね(笑) 私はずっと世田谷線を通っていたんだけど、吊り革を持つとおなかが見えたりするわけ。すごく大胆で、その辺が私立と都立で全然違うなあっていう感じがした。とにかく日大の子は派手だったね。でも松原の子は年相応という感じがして。

——もう一度高校生になれたら、どんな事をやってみたいですか

EPO 嫌だった所はそんなに無かった。だけど、学校自体が住宅地の中にあるからねえ、私たちはすごく音楽やリタかったけど、クラブとして成立するのが認められなかったのがちよつと残念だった。そのくらいかな。先生もみんな良かったし。楽しかった。うん。

EPO もっと色んなことをやってあげば良かったなあと思ってるのね。いい子だったっていう所があったから、そんなに遊んだりしなかったの。いわゆる一般的な高校生がする遊びっていうのはほとんどやらなくて、デイスコなんかもそんなに行かなかったしね。旅行もそんなにしなかったし。もつと男の子と遊んだりとか、その頃でなきゃ経験できないことをいっぱいやりたかったなあと思う。あの頃ってやっぱり感受性が豊かだからね。色んな事やっても、まあとりあえず10代だからって許してもらえりし。派手にはめを外しても、決して無駄にならないような気がするのね。別に不良になれば良かったって事じゃないんだけど、色んな経験があった方が自分の中のデータが増えるから、何かがあった時色んな判断力が出るじゃない。そういう意味では、もつと表へ出て色んなことをすれば良かったなあ

と思う。まあ、大人からは叱られるかもしれないけど、叱られる手前で大胆に色んな事にトライしていくのはいいと思うなあ。

— EPOさんの高校時代をひと言で表わすと？

EPO そうねえ。ひと言っていうと難しいけど、おだやかだったのね。とっても。それで、私は高校の時に演劇部に入っていて、演劇部の仲間とニッポン放送の「ライオン・フオークビレッジ」っていうコンテスト番組に出たのね。(註・この時のバンド名は「Laugh」EPOさんの作詞作曲した曲で、全国大会のベスト5に残ってます) それがつきかかったから。高校生活っていうのは自分が今こういう仕事をするステップというか、きつかけだったから、そういう点で大変重要な時期でしたね。

最後に、後輩たちの文化祭に励ましのお言葉を、

EPO では。一年に一回しかないお祭りだし、文化祭の時に恋が芽生えるなんてのもありますから。(笑) みなさん楽しくすごして下さい。それから、勉強ばかりやっていると頭でっかちになっちゃうから、文化祭のテーマじゃないけど、これからは個性的な人がとっても有意義に生きていくのではないかと私は思うから。松原高校ってとてもいい環境にあるし、先生方もとても親切だから、迷惑をかけ

ない程度にはめをはずしつつ、(笑) 楽しく学校生活をすごしてください。



高校時代を送りましょう、僕たちも松高に PUMP、PUMP、

(インタビューの感想)

今までコンサートやテレビでEPOさんを拝見したことはあったのだけれど、実際にお会いし話してみても、良い意味で「まだ20代なのに凄く大人の人だな。」という印象を受けました。雰囲気や、人への接し方がとても真面目で、しつかりされているのです。緊張してどうもぎくしゃくしてしまったり僕たちに嫌な顔ひとつ見せず、やさしく、一つ一つ真剣にインタビューに答えてくださいました。自分の意見やポリシーというものをちゃんと持っているのだけど、その中にも他人への思いやりやさしさを必ずわすれていない。そんな、本当に尊敬に値する先輩だと思いました。

松原高校にはEPOさんの他にも、清水信之さん(昭和52年度卒。松高時代はEPOとバンドを組む。現在、編曲業を中心に多くのアーティストを手がけ、音楽界のトップシーンで活躍中。今もEPOと一緒に活動が続いている。)や、渡辺美里さん(昭和59年度卒。昭和60年の本格的なレコードデビュー以来、若者の心に訴える歌詞と抜群の歌唱力でティーンに圧倒的な支持を得る女性アーティスト。テレビドラマの主題歌「My Revolution」のヒットの後、発売されるレコードは常にベストテンランキングされている。)といった、音楽界で大活躍されている先輩方がいらつしやいます。日本のミュージックシーンを松高出身者で埋め尽くす日も近いのかもしれないね……

これら素晴らしい先輩方が高校時代を過ごしたこの松高。現役の僕たちも、あらゆる事に頑張って先輩方に負けない

(おまけ)

今回のこの原稿を書く参考に、と

「ル・クール」のバックナンバーをパラパラとめくっておりましたら……なんと、昭和53年度版に、当時3年生のEPOさんが佐藤永子の本名で、ずりかされていたのです。松高の音楽人間達の音楽観、といった内容のコーナーに「歩み」と題して、ちよつとおしゃれな文章を載せておられました。これをこのまま埋もれさせておくには惜しい！とばかり、実に8年ぶりに陽の目を見ることになりました。松高生してた頃のEPOさんの感性に触れることができるでしょう。



生徒会



こう

生徒会活動総務

報告結果合試

委員会

会紹クラブ

●61年度前期生徒総務活動報告

さて、今年の総務は四月の発足時から異例のスタートを切ったと言えるでしょう。二月に行われた来年度の新役員選挙で、立候補者の不足から定員数（九名）に達しなかった為、五月の補欠選挙で新一年生三名を加えてのスタートだったからです。一年生が前期から総務に加わるのは前例の無い事態でした。その前期総務の活動を月を追って報告します。

（四、五月）

この頃は会長をはじめ役員が皆、活動に暗中模索の状態でした。その為、他校（戸山、新宿高校等）の生徒会を訪れその活動内容を勉強したりしました。五月には体育祭・体育祭では、日程的に押しせまっって内容や運営に関与することができず、予算の執行のみに留まりました。

（六月）

例年六月は生徒会行事は無いのですが、今年は高校柔道の日米交流として本校に訪れた短期留学生との親善会を行いました。文化委員会の企画・運営を総務がバックアップしたこの企画は、準備期間が短かったにも関わらず予想以上の盛り上がりを見せました。また、この頃から文化祭の企画を練り始めました。

（七、八月）

夏休みも、印刷や道具の貸し出しのために役員が交代で

登校して週に2回程度生徒会室を開室しました。八月からは、九月に控えた文化祭の準備と、今年度末に予定されている生徒会会則の改正についての審議で何回も役員会が開かれ、普段できない時間をかけた討論が繰り返されました。

（九月）

さて、九月は前期総務の大仕事、文化祭です。二学期に入ってから、文化委員会と協力して連日遅くまで準備が進められました。総務が最も力を入れた企画が講演会でした。これは総務主催で数年前から行われているもので、今年度は人気アニメ「タッチ」のヒロイン浅倉南の役等で活躍中の声優、日高のり子さんをお招きしました。一学期から交渉を初め、前日は夜遅くまで準備した甲斐あって、当日は大成功。その歌声と楽しいお話に、いつもは騒がしい松高生もこの時ばかりは舞台を見つめ、私語もありませんでした。松高からラジオ番組の中継というおまけまで付いて、総務一同、成功の喜びをかみしめました。他にも、予算面の仕事はもちろん、エポさんへのインタビューや校内案内板の制作等、一般生徒の見える所、見えない所での苦労が報われ、文化祭は総務として納得のいく成果が得られたと思います。

以上が、前期生徒会総務の主な活動でした。今年度は例年に無く役員が一丸となって、様々な活動に工夫を凝らし、年々衰退しがちな生徒会の活動に歯止めをしたと自負しています。今年度の実績を土台に、62年度の総務の活動にも期待します。

●委員会報告

生活委員会

ルクルを読んでくれている松高のみなさまへ！松高には、「立番制度」があるのを知ってるよね！何であるのでしょうか？そう思った人は多いと思う。「立番制度を担当している生活委員の9割は、「必要ない」と考えています。でも、なんで立番制度があるのか。それは、「ケジメ」の問題です！遅刻は多いわ、中抜けするやつはいるわ、タバコを吸うやつはいる。ちよつと、このままじゃ「立番」をなくしたらどうなるのか？ということになります。ひよつとすると、5時間目の授業の時、だれもいなかったりなどということがあるかもしれないもん。どーなんでしょう？自由で、ノンビリムードな松高、もう少し「ケジメ」さえつけば、もつとスクールライフが楽しくなるはずですよ。

「みんなでなくそう 立番制度」

「只今、ヤル気のある生活委員 募集中！」

(二F 藤牧 直観)

整美委員会

私たち整美委員会は、「学校の美化」が仕事です。

ではのイベントを行いたいと思っているので、その際には是非、参加してください。

(那須 章枝)

体育委員会

私達「体育委員会」での活動としては、主として体育祭の計画、進行など、また他には体育に関するだいたいの活動をしています。

体育祭についてのことで競技種目、競技方法及びルール、人数わりなどのほとんどのことを体育委員会で話し合い決めていきます。また前年の体育祭の反省をもとにして、年々良い体育祭ができるようにはしているのですが、それで毎年必ずといっていいほど反省が出てしまいます。しかし、私達体育委員会ではそのようなことにはめげずにがんばっています。

しかし体育祭は体育委員会などの一部の人達だけでは、成功はしないと思います。そのためにもみんなが一致団結して協力してほしいのです。

体育祭以外の仕事としては、体育の授業のときの先生との連絡と準備、球技大会のときの計画などと、輝松祭の後夜祭のときのフォークダンスの指導などです。

このように、体育祭や後夜祭などはみんなにとつてとて

そのために、我々整美委員は、ゴミかごの始末、黒板消しのクリーナーの始末などの仕事を、日夜、努力しています。いわゆる「うら」の仕事なので、この委員会の存在も、あまり知られていないでしょうが、例えば文化祭の華やかさのうらで、各クラスなどでだされた、ダンボール、その他のゴミを、業者のトラックに、のせたりして、かたづけをしていました。

みなさんも、ロッカーの上に物をおいたりせずに、学校の美化につとめ、整美委員に協力するようにお願いします。

文化委員

いわゆる「企画係」である文化委員。

私達委員の一番大きな仕事は「輝松祭」。

輝松祭の為に設けられた「文化祭執行室」は生徒会室の隣に位置している――

「もう一つ、わがままだよつ」

「でも……やつてよー」

「おいS君、ちよつと来てー」

こんな会話が放課後飛び交う日が数日続いた後、「輝松祭」をむかえた。

私達の活動は毎年、学校のお祭り「輝松祭」だけだった。だけど、今回あと半年のうちに何か一つ、今年の委員なら

も良い思い出を作る大切な行事です。この大切な行事を、体育委員会では、もつと良くしていこうと思っています。

クラブ委員会

クラブ委員会とは、その名のごとく、クラブ活動を統轄する委員会です。

その活動内容というと、学校側からの各クラブへの伝達事項を伝えたり、練習日のわりふりや、クラブ規定の改廃、また新しくクラブ・同好会を発足するための第一関門ともなっています。要するにクラブ活動がスムーズに行なえるようにバックアップするのが仕事というわけです。

またクラブ委員会には、他の委員会とは大きく異った特徴があります。それは個々の委員が各部の代表、つまり部長であるということです。そのため夏休みの練習割り当ての話し合いなど、自分のクラブに関係する話しには、みようちに気合いが入ります。

クラブ委員会は、このような活動をしているのですが、なにしろ各部の部長という特定の人しか集まらないので、一般生徒には、あまりその活動内容は知られていないようですが、松原高校には、必要不可欠な委員会です。

新聞委員会

当新聞委員会は、一年生十名、二年生十二名、三年生十四名、合計三十六名の人間によって、い・ち・お・う・構・成・さ・れ・て・い・る。ここでなぜひちおうに傍点をつけたかという、当委員会はめつたに全員が出席したためしがないからである。三十六名の委員達は、百戦錬磨の強者どもである。しかしこのパワーを取材の方に回さずに、委員会をさばるとか委員会中ペラペラおしゃべりをするとかいうことに使ってしまうのは全く惜しいことだ。

おお、そうだ。委員のことばかり書いていても仕方がない。新聞発行までの段階を説明しよう。

まず各学期ごとに、編集委員を募って編集部を構成する。大体は委員長が編集長として全責任を追うことになっている。編集部が決定すると、続いて編集部で学期ごとの予定と方針を立て、それに基づいて委員たちも取材に走り回る（かどうかわらんけど）わけである。メ切り日に集まった各委員の原稿を編集部が校正・編集し、新聞の原版を作る。これが最もたいへんだ。編集部が諸氏がないチエをしぼって、割り付けや見出しの考案に苦慮するのである。さらに記事として不足している場合、編集部が取材に走り回るのである。（最近では編集部が原稿を書き、載せてしまうパターンが多い。）このため、メ切り後一週間位は、夜遅くまでの作業が続く。しかし、その苦勞を乗り越えて新聞が出来上がると、なんともいえず、うれしく快感である。

新聞委員会は、興味あるヤル気のある君を待っています。最後に「松高新聞、読んでますかあッ！」

放送委員会

この放送委員会という奴はなかなかの人気者である。

校舎南棟の二階、校庭に面した校長室の真上に放送室がある。我々放送委員会はこの放送室を拠点として校内の生徒に対し数多くのインフォメーションを行なっている。個人、サークルの呼び出しはもちろんのこと、毎日の「昼の放送」や「下校放送」、それに体育祭、輝松祭、入学式、卒業式の全放送はこの委員会が管理し、行なったものだ。ではその実態を見てみよう。

まず委員長をはじめとする全三十九名が約半数ずつアナウンサー、ミキサーにわかれて仕事をする。任期は一年間。当番をきめて昼の放送、下校放送を行なう。なんと、あの下校放送は毎日ナマ本番なのだ。仕事の他に新人育成もかきさない。アナウンサー、ミキサーにわかれたときにそれぞれのわかりやすいテキストをわたすので

「誰でもカンタン！」

なのである。もちろん、放送室内では好きなレコード、カセットをかけて聞けるから、むしろ委員会の中ではおもしろい方だろう。

ところで、今年度後期の委員長は早くも一年生がやることになっていて。やる気のある者は、美声を、そして自分の好きな曲を校内に流すことができるのだ。

諸君！

放送委員会はいかがかな？

(二F 黒部健一朗)

図書委員会

我が図書委員会は、本を借し出すだけが仕事ではないのです。新聞班、資料班、広報班、統計班、読書班の五つの班に分別できて、新聞班—図書新聞の編集。締切近くならないとなにもやらない。資料班—新着本の松高図書館タイプへの変形（トランスフォーム）つまり、カバーやブックポケットのはりつけ。広報班—ポスターや、写真ニュースの提示。そしてその他雑用。統計班—貸出冊数の統計調査、たし算ができる人であればだれでもよい。ペテランの人が現三年生にいる。読書班—読書会の開催。真剣な話し合いが進むはずなのが、いつのまにか、雑談会へとなってしまうヒサンな班。——といったような活動をしているわけがあります。それが一番大切かは言えない。つまり一つ一つが大切な班なわけです。又、二学期末の試験休みから冬休みにかけて蔵書点検という作業があります。これは、カードを一枚一枚本にはさんで、紛失していないかどうか確

認するという、時間と労力の最もいる作業であり、これをやらないと年が越せない……。ほんとにこれは、一番大変な仕事であるわけでありませう。

(文責 前期図書委員長 II C 木津 隆文)

クラブ紹介

美術部

「美術部。」というと、ほとんどの人が、「そんな部あるの?」「活動しているの?」と言います。確かに、人の目につくような派手な活動はしていません。はっきり言って地味です。でも、地味は地味なりに頑張っているのです。この美術部は、「不活発な部。」、として名を知られていました。クラブ委員会で、この美術部が活動しているか、していないか問題になった程です。えばれることではありませんが、クラブ委員で問題になった時の状態と、今、現在を比べると、美術部として進歩したんだなと感じます。美術部員が、活動日には真面目に出てくれるという状態には程遠いですが、でも、美術部は頑張っています。週に一回の活動ですが、その一回を大切に活動しています。さて、ここでみなさまに申し上げたいことがあります。美術が好きで、下手も上手も関係ありません。どうぞ美術部に参加して下さい。特に一年生、参加をまっています。現在、一年生の部員は一人です。このままだと来年にはつづけることが目に見えています。みなさまのご参加、お待ちしております。

生物部

生物部にとつての最大の行事は文化祭です。この時ばかりは、部員全員がひしひしとあせります。青くなります。第二といえば合宿です。「合宿なんかあるの!」という声が聞こえてきそうですが、あります。運動部の合宿と同じように、生物部の合宿では、教わる人が多いのですよ。合宿に行くと、自分は生物部員なんだ!と目覚めるくらい頭の中が草木花の事でいっぱいです。それに、大自然の中に立つと、深く感動します。今年は尾瀬に行きました。青い空、緑色の湿原、地平線につづく二本の木道、こんな景色、想像しただけでもいいものではないでしょうか。

ところで、みなさんは、「生物部」ときくと「暗い」といいませんか?と思います。それが部員の悩みのタネです。実際入ってみると、意外と明るいし、なかなかたのしいし、けっこうやりがいもあるし、多少うす汚れた教室ですが、「住めば都」とは、よくいったものです。みなさんも、少し違った見方で生物部を注目してみれば、いかがですか?

あにめーしょん研究部

我がアニメーション研究部は(制作部だらう!!などという人もいるが)その名が示すとおりアニメに燃える人達のための部であります。ラムちゃん命の人、特撮に狂っている人、クリイミーに犯されている人、C翼:いろいろな人が「今の時代は自主制作だぜ!」と一致団結してその血と涙と汗とほかほかの結晶(あ、ライフガードもあつた)が、文化祭に上映されるアニメなのです。…あにめ制作はとつてもくらい、いやつらい仕事です。夏なんかきれいに晴れた青空を見ながら「今日も28度こえるな…」かなんか考えながら一日中机に座ってカリカリ書いてるんですもん。毎日毎日同じ顔をつき合わせてカリカリ二週間も過ぎるころにはもう、喋る元氣さなくなってます。(それが「あにめ研は、暗い!」といわれるゆえんなのかもかもしれませんが)しかし、何故にそんなに苦しいことをやっているのかそれは自分の絵が動く!という感動があるからなのです。あなただって本の隅にパラパラまんがを書いたことがあるでしょう?あの、感動です。一度味わうともうやめられません。そして仲間達:あに研って本当はとつてもアットホームな部なんだよー。一度、塩カールを持って遊びに来てね。歓迎します。

PS.誤解をしている方のために――

私たちは「マニア」でも、もちろん「おたく」でもありません。よろしく!

華道部

華道部は毎週土曜日一時半より、地味ではありますが、楽しく活動を行っております。文化祭でも大会議室を使い生気といわれようと何だろうと毎年作品を展示しています。今年はどういう訳か一年生が、花に興味を示してくれず、目下の所一年生部員はおりません。が、二年生になってから時間的余裕ができた人などが途中から入部してくれました。人数が十五名足らずと、規模は小さい部ではありますが、それだけにお花の先生の指導もよく行きとどいたものとなっています。「女の子ならお花ぐらい」などと言う気は全くありませんが、たまには、お花でも活けて、センスをみがくのもよいと思います。今のところ活動内容は、活け花のみですが、近いうちにドライフラワーやポプリなどにも挑戦する予定です。興味がある方は、保健室の園田先生に連絡して下さい。お花を活ける楽しさは活けてみないとわかりません。みなさん、よろしかったら、おいでませ華道部へ……。

ブラスバンド部

年間行事

対面式

体育祭 (今年は5月17日(土)でした)

合宿

東京都吹奏楽連盟コンクール (今年は銅賞)

松輝際

新宿区まつり「ビバ・ブラスフェスタ」(今年は奨励賞)

東京都地区音楽会 (今年は11月30日(日))

定期演奏会(今年度は来年の4月2日(木)世田谷区民会館)

今年は新入部員も多く、東京都吹奏楽連盟にも加盟したので我ブラスバンド部は大いに発展しました。吹奏楽連盟のコンクールでは、自分達の力、他校の力をしりとても良い刺激になりました。そういうこともあり10月12日に行われましたビバ・ブラスフェスタでは奨励賞(賞金5万円)をうけました。これには多数のOBの方、先生などのご協力があったからこそと思います。今年度の定期演奏会は、第10回という記念すべき演奏会なので部員一同いっそう気合を入れ、練習に練習を重ねていますので、みなさん！聞きにきてください。

ワンダーフォーゲル部

我々がワンダーフォーゲル部は、男子16名、女子6名、顧問2人の冒険者達の集団である。

活動といえば、春の山行が一回、今年は奥多摩の本仁山に行った。夏の合宿は北八ヶ岳にある蓼科山へ顧問を含むメンバー12名で密林をあばきに行った。山を登りきったあとのメシがうまく、また山頂におけるエンターテイメントである写真撮影も楽しみの一つである。

またこれから楽しみである秋の山行であるが今メンバーでどこに行こうか企画しているところである。秋を過ぎ、冬の活動は、山に行くことを禁止されているので、河でのザバイバルや、体育館裏での昼食会が予定されているのである。

自然が我々を呼んでいる。次の冒険が我々を待っているのだ。みなさんも我々と一緒に冒険してみませんか？

If adventure has a name...
it must be Wandervogel

山岳部

夏の炎天下の中、目前にそびえ立つ山の頂を目指して黙々と歩く。荷は重く背にのしかかり、喉の渇きと熱さに苦しめられる。頭の中で考えていることは、「早く頂上に着け。」しかし、何度仰いで見ても頂上はまだ遠い。「もうだめだ……」倒れそうになったその瞬間、可憐なチニグルマが目にとまる。「よし、あの頂上まで」何故だか氣力が沸いてきて、再び歩く。

ついにその頂を極めた時、頭の中が一瞬、空白と化しそしてじわじわと、今まで味わえなかった充実感があふれてくる……

よく、「どうして山なんかに登るの？」という質問をする人がいる。答えは、「そこに山があるから」などいうものではない。山に登った人のみが知っており、へたな形容詞や名詞をそれこそ、「山のように」並べたって表現できるはずがないのだ。

山岳部の部員は男女合計で二十数名。個性派ぞろいで少々、まとめるのに苦労するが、みんな本当にいい人ばかりである。活動山域は、丹沢・奥多摩・奥秩父・八ヶ岳・尾瀬そして日本アルプスと幅広い。冬山・岩登りをやらないので、ごく普通に歩ける人なら誰にでもできる。とにかく、都会のコンクリート・ジャングルでは絶対に、味わうことができない事ができる部。これが山岳部です。

部長 二C 中野 匡

陸上部

うちのクラブは、マナージャー9名を含む部員数43名という、我松高において部員数では一、二を誇るクラブなのです。ほら、あなたのクラスにも1人は「MASC」のメンバーがいるでしょ。その彼、彼女、きっとあの体育祭で活躍してたはず。うらやましいな、って思った子、一度はいつてみるしかない！もしかしたら来年、ヒーローになれるんだから。

クラブ内は、部長さんをはじめ、みんななおもしろい人ばかりで、at home 感覚。いいでしょ。

今、女の子が少ないんで、女の子大歓迎。もちろん、カー・ル・ルイス2世をめざす男の子も。

そうそう。陸上って走るのばっかじゃなくって、幅跳びや高跳び、砲丸投げや槍り投げだってあるんだよ。おじけづいてなんかないで、若いうちにしかできないコト、一緒にやってみようよ！入部はいつでもOKだからさっ。

軟式テニス部

「軟式テニス」といえば柔かいボール。これが本当に良くなくなると思えば、ふとどきな者が野球遊びに使っていたりする。こんな所でも「軟式テニス部」は人々の、そして社会の役に立っているのです。なのに、最近はこちらと硬式に比べ追いつけられれているのでうかうかしてられませんという苦しい強がり。

おっと、これはクラブ紹介であった。我が「軟式テニス部」は教科書が一冊できる位歴史が古く、沢山のOBやOGの方がいらして、毎日のように遠路はるばる教えにきて下さるというありさま。練習日は、水・日を除く週5日で、なかなか楽しく充実した練習で、さわやかな汗を流して、タオルで拭かずにそのまま。

そして、毎年夏には山中湖で合宿をしています。自分は今年始めて合宿にいったのですが、素晴らしい自然の中でするテニスは最高です。練習でかいたさわやかな汗を、遠い山のふもとから吹いてくる風が乾かしてくれる。そしてタオルで拭かずにそのまま。

最後に、一部の人からよく聞かれる事、「練習中に女子は何を行っているのか」にお答えします。あれは幸福を呼ぶ呪文なのです。まだ部活に入っていない人、あなたも「軟式テニス部」に入って一緒に幸福になりましょう。だからといって「軟式テニス部」は宗教団体ではありません。

硬式テニス部

今年でめでたく十周年をむかえた硬式テニス部ですが、このクラブは他のクラブ同様、きつい筋トレもあれば、ハードな練習もあるんです。しかし一度入部してしまつたが最後、やみつきになりそうな楽しいクラブです。その楽しさとは、ただひたすら相手とボールを打ち合うことなんです。ボールを打つだけ、と聞くと一見地味に聞こえますが、テニスという肩書きをつけるとカッコよく聞こえてしまうから不思議なものです。

ついでに他の特徴も述べますと、まず先輩と後輩の仲が良い、顧問が巨人ファンであり巨人が負けると機嫌がわるい。夏合宿の前などはOB、OGが多数来て指導してくれる。などといったところであり、特に夏合宿は、練習は大変厳しいし、つらいけど、終わってみると必ず来年もう一度行きたくなるような合宿です。

おっと硬式テニス部の最大の特徴を言い忘れるところでした。その特徴とは——「弱い」ということです。

(部長 矢部浩司)

バドミントン部

「なあいす ふあいと——っ」で疲れが全部、ふつとんでしまうバドミントン部です。

みなさん、「バドミントン」っていうと「風通しのないところで、小さな羽を追ってコートの中を走るクラいスポーツだ。」なあーんて思ってますか？確かにそうなんだ……けど、あの小さな羽の為にコートの中をやたらスパやく動がなくちゃならないんだから、はつきりいつてツライんです。だからかなあ……不思議とみんなスパ・やいもんです。

うちの部は、元々このスポーツが「女の子スポーツ」っぽく見られちゃうせいか、男子が少ないんです。でも私個人としては、男子だつて「燃えて」やればメチャ決まっちゃうって思うんで、一度やってみるのも……何事も経験っ！活動日は月・火・金の3日間、体育館にて。是非一度は上からのぞいて見てくれたら……嬉しいですよ。

那須章枝

男子バレー部

男子バレー部は今、一・二年生合わせて、十五人と、人数はあまり多くありませんが、それなりにみんな楽しんでやっています。今年の一年生はほとんど全員高校に入ってからバレーを始めたという人だったので、みんな同じライオンからのスタートでした。そのせいかそれぞれがライバル意識をもって練習しているようでした。

今年のチームは、レギュラー六人のうち、中学の時からやっていた者が二人しかいないので、試合中でもなんとなくぎこちないプレーが目立ってしまっています。自分たちはコートの中でひっそりやっていると見えても、外から見ると何をしているんだ、というプレーが多いと思います。春の大会までには、そんなプレーを少なくしていきたいと考えてはいます。練習にはげんでいます。

二年生にとって公式戦はあと二回しか残っていません。残りのバレー部での高校生活を自分たちなりにがんばって、楽しく過ごしていきたいと思っています。

女子バレー部

私達女子バレー部は、毎日の練習を「やる時はやる」の意気込みで、がんばっています。

バレーボールにはこの人がいないとやっていけない、といわれる服部先生と、影の力となって、私達を見守ってくださっている赤尾先生率いる女子バレー部です。

私たちのチームは、パスは六メートル以上とばし、サーブは必ずセッターに返せて、セッターは全て天井に届くくらいのトスをあげて、アタッカーはエンドラインぎりぎりに、弾丸のように打つことができます。

その成果は、普段の練習で、部のみんなが、レギュラーを目指して、熱く激しい闘志を燃やし、がんばっているからです。

部員は、一年生十五人、二年生六人、三年生九人の計三十人です。全員ちよつちゆぬけている所があるけれども、とても楽しい部です。

卓球部

みなさんの中には卓球と聞くと「卓球はダッセー」とか「あんな暗いスポーツなんか」と、思っている人もいます。しかし、よく考えて下さい、ほとんどの学校に卓球部があります。それだけメジャーなスポーツなのです。

少しは興味あるんだけど、バカにされそうで：とか「むずかしいから初心者じゃできないかも」と、やりたないあと思つていても〇〇だから、とあきらめないで下さい。卓球は初心者でも平気です。今いる部員の3分の2以上が初心者です。要はやる気と努力です。それさえあればどんどん強くなることを保証します。また、暗そうだからと思つてる人、はつきり言つてうちの部は明るいです。どういうふうに明るいかは、口では説明できません。とにかく見てくれればわかると思います。

そして、うちの部は毎週OBの方が大勢来て練習をみてくれます。なぜ卒業してまで部に顔を出すかわかりますか？それは、高校時代、クラブを一生懸命にやつてクラブが好きだからです。クラブというのは高校時代の一つの思い出です。卒業してすぐ忘れてしまうようなのは良い思い出ではありません。卓球部は卒業しても「あの時は良かったなあ」と思える部なのです。

是非、卓球に挑戦してみてください。僕達はまっています。

松原高校卓球部部长2年E組 榎本雅也

サッカー部

こんにちはサッカー部です。

ぼくたちはサッカー部は部員が19人（その内2年生はたった5人）、マネージャーは9人と他の学校と比べると、ぜんぜん人数が少ないクラブです。それでといつては何ですが、先輩、後輩と共に仲良く活動しています。

活動日は月・火・木・金の4日間で土曜日は練習試合などのために開けてあります。たまに日曜日に、OB会や大会などがあります。

夏休み中に行なつた世田谷区大会では2位なり、今までトロフィーなどなかった部室にたった一つだけ獲得しました。

僕達の目標は都大会出場です。今までのサッカー部の歴史においてこの目標を成し遂げた先輩達はいないのでなんとかしてこの壁を達成したいのです。

このように部員も少なく過去の記録も見当たらないクラブですが、今全員一丸となって都大会のゴールネットを揺らそうと頑張っています。

剣道部 燃えたぎる若き血潮の集団

剣道部の人々に共通する事がいくつかあります。まず、第一に動きが機敏である。第二に個性が強い（強すぎる）。そして、なんといつても最大の共通点は「目つきが悪い（鋭い）」ということ。この事は二年生の方々を見ればわかるでしょう。一歩間違えばほとんどヤクザです。クラブ内の事をいえば、先輩は後輩をとてまかわいがあります。それはもう仲の良い兄弟のようです。でも時々まかわいがり過ぎてエキサイトしてしまいます。まあそんな事は本当にまれです。話を部内の事にもどします。部員は3年11名（男5名女6名）、2年12名（男6名女6名）、1年19名（男9名女10名）、全体で男子20名女子22名、合計42名です。男子より女子が2名は多いのは意外でしょう？

女子部員は全体の9割強が初心者で入部して来ます。中には剣道をまったく知らず、高校で初めて知った者もいます。でも、女子部員は、コツコツ練習して合宿を終わつた頃から初心者だったとは思えない位上手になります。

男子部員は、女子と少し異なり、コツコツ練習する者はいません。全くしょうがない部員で部長さんも大変です。前にも書きましたが、本当に個性が強くないだろうか。いや強い。又、逆境に強いのも剣道部員のすばらしい世界旅行です。

PS 顧問の小笠原よりの使者、柳ユレイ、おつと違つた柳先生は、強い。はてしなく強い。六三四の剣よりも強い。電撃面！一本！！

おしまい

合唱部

合唱部は、はっきり言って「合唱部なんてあったの?」と言われております。が、部員いわく「失礼な、人数は少ないけど、週2回はしっかり活動してるし、文化祭だつてちゃんと発表しているんだぞ。みんなが聞きに来てくれなから、知らないだけなんだぞ。」と、冷たい声を聞かれたに、怒りの声をあげています。

少人数なのに存続し、しっかり文化発表もしている:ということは、「やる気」の問題。今年の文化祭なんて小曲を含め8曲も歌ったんですよ。そのうち4曲はサウンド・オブ・ミュージックからだったので英語で歌ったし。うーん我ながら、よくやったと言わざるをえないですね。そう思いませんか、皆さん?現在は「ちこたん」を練習中。そのあなた、そうあなた。入部しません?歌っている気分もすつきりするし。高い声なんて出ないしーと思っているあなた。高音なんて発声で練習次第で信じられない程出るもの。歌つてると本当に楽しくなりますよ。火曜日と金曜日の放課後、音楽室で活動しておりますので、聞きにいらして下さい。心から歓迎し、楽しい歌声をお聞かせできると思います。

今度「合唱部なんてあったの?」なんて言ったら、はったおすかね。

クッキング部

えークラブ紹介ですが、何から書いていいのかわからないので、クラブで何をやっているか、書きます。

「えー今日は〇〇を作りますー。」

という事で始まりましたクッキング部、たいてい時間までの約一時間半は急げや急げで、あくびをしているひまありません。一人は庖丁、一人は泡立て器、一人はゴムベラ……を握り日頃のうつぶんをはらすべく、めもあてられない形相でやるはやるは……といううちにどんどんその日作るのはでき上がります。

そうこうしながら出来上がった物は体裁はなかなかだが、見る人が見れば手抜きと誤魔化しの極致である。でも食べて見ると皆が声を合わせて

美味い!!

と以上がウチのクラブの紹介……じゃなくて全部本当ではなく、(でも半分くらいは当たっているカナ?)

みんな真面目にやっています。本当です!!

顧問の角先生曰く「ウチの部はみんな、かわいい子が多い」となっているが実際は……どうでしょう、もしひまがありましたらのできにきて下さい。(ただし期待にそぐわないからといって、ナイフ、金属バットなど持ち込まないで下さい。)

男子バスケット部

男子バスケット部を紹介します。

顧問は橋本雅先生で、部員が25人、マネージャーが6人です。火・水・土の週3日、体育館で活動しています。

練習日は少ないけれど、とてもいい気分を見ることができます。時には見ている人々をおうならせます。また、型にはまらないプレイの数々も目が離せません。もうすぐ大会があります。11月に行われる新人戦支部大会に向けて練習に励んでいます。

合宿では厳しい練習が待っています。特に男女合同のフットワークでは、気合いだけで体を支えているような人もいます。この時のプレイヤーの真剣な表情は、忘れることができます。

男子バスケット部は明るく仲良く楽しいクラブです。時々先生方から、「まったく男バスはあ……」と、おしかりを受けても、練習中ちよつと遊びに行ってしまう人がいても、マネージャーがいつも「部費!!」とうるさくても、部室が汚れても、いつも元気です。私たち全員、男バスは松高になくはならないクラブだと信じています。

女子バスケットボール部

いつもにこにこの私達は、毎日ニコマートに通いどんちやん騒ぎが好きで、祭りとか聞けばすぐかけつけ……というのは半分うそです。でも、みんな元気いっぱい、現在、一年生十二人、二年生九人、そのうち一年生が二人マネージャーです。この人数が集まれば、どこだろうとギョーギョーわめきちらし、まわりにいる人達に、冷たい目でジーツと見られるのです。しかし、OBのやさしいコーチのもとで鍛えられている私達は、そんな目にも負けずに頑張ってしまうのです。まっ、そういうところが、「女バス」の良いところと言えるでしょうね、はい。練習は金曜日が定休の週休二日制で、月曜日は外練です。火、水曜日は体育館の4分1でやるので少しきゅうくつですが、みんな、一生懸命です。先輩・後輩の仲も良く、たまにどっちが上級生なのかわからない時もあります……。そして、一年生は、いつも、二年生のことをいじめて遊びます。二年生といえ、いじめに負けないよう、精いっぱい反撃してくるのです。なんていじらしい二年生なんでしょう。でも、一年生は、性格はともかく、外見はとてもかわいいです。本当ですよー。二年生は……さあどうでしょうかし。

こんな部ですが、やる時はやります。今は。先輩から引き継いだ『三部』というランクを落ちないように、あのせまーい体育館で、汗水をたらたらと流しながら、新人戦に向けて頑張っているところです。

柔道部

拝啓—今、柔道部は、ひじょーにピンチです。何故なら、一年生部員がいないのです。部員は三年生が男子三人女子一人。二年生は男子七人女子四（？）人です。何故部員が入らないかを考えると柔道は「怖い」とか「痛い」などの悪い印象が連想されがちですが、確かに試合で自分よりでかくて太った、いかにも「俺は柔道やってんだゾ」って感じの丸刈の相手と闘うのはとても怖くて投げられとても痛いのです。でも、これらの恐怖や痛みは全てのクラブ、特に運動系のクラブにはつきものです。柔道にもいいことは沢山あります。勝てないと思った相手を投げた時や、練習試合を通じて他校の生徒と友達になれたり、昇段審査に受かって初めて黒帯をまく時など本当に多いです。昇段審査について言うと、部員は勿論、部外者も受けて黒帯になっています。一年生の中でも受けた人は気軽に来て下さい。部員みんないい奴等です。現在主に活動しているのは部長を筆頭に、いかにも柔道やってんくなって感じの副部长。エッこいつが柔道やってんのって感じの奴が三人。他校の柔道の人と顔が似ているというだけでその人の名前がそのままあだ名になった奴の計七人です。冒頭のピンチを救えるのは貴方だけです。部員は試合が出来るだけの人数が集まれば結構です。まして他のクラブのようにマネージャーがいたらいいなあなんてぜいたくは申しません。本当は言いたいけど、多くの人が入部してくれることを希望します。みんな柔道しませう。

敬具。

野球部

我々野球部は、甲子園に行きたい

今年の野球部は、去年に続き、スーパースターの集まりである。まずピッチャーの某選手は、投げればノーヒットノーラン、打てば30分で打ち止めという、つわものである。又、ノーヒットのS、サードのI選手達は、入部当時から似ていると言われ続け、今では彼らが一卵性双生児ではないかという噂まで立っているが、彼らは知らない。

さて、ショートのT選手、彼は我々が野球部のマスコットボーイである。近日中に彼のイラストの入ったキャラクター商品が発売される予定があるわけがない。

そしてセンターのT選手、彼はキャッチボールよりも柔軟体操の方が得意という特異体質である。はずすのは関節だけではなく、彼のギヤグをはじめ、言動全てである。

セカンドのT選手は、野球部をかげで支える副キャプテンである。そして又、野球部きつてのスプリンターで、盗塁成功率0%。2年後のソウルには期待したいものだ。

そして最後に、レフト、大はずしのキャプテン（Kほどはさすがない）彼は、合宿で、寝ているOBの頭にマキユロンをかけて、それがばれ、一晩中正座させられたという、とんでもない本書の作者である。

我々野球部は、軟式であった。

つづく

ソフト部

ソフト部は現在、3年生11名、2年生13名の合計24名の部員からなっています。しかし2年生しか活動していないため、1チーム作るのにやっとです。また、とても仲良く楽しいクラブなのに、今年は一年生が一人も入ってきませんでした。女だけでワイワイと楽しめるともいい部なのに、誰も入らないなんて（今からでも大丈夫ですよ）。是非とも来年は一年生をたくさん入れて、人数を増やして、ソフトボール部をより一掃、楽しい部にしていきたいです。ソフト部の主な活動として、キャッチボール・素振り・トスバッティング（短かい距離からボールを投げ、その球を投げた方へうち返す）・シートノック（自分の守備につき、ノックをうける）・ベースランニングなどです。

これからは春の大会に向けて、一生懸命練習していくつもりです。とにかく、とてもチームワークの良い部です。♡



写真部

暗い、臭い、何をやっているのかわからない。こんなところが、皆さんの写真部の印象でしょう。が、それは皆さんの偏見ではないでしょうか。しかし、活動を正確に行うとこうなってしまうものになってしまふのです。かと言って、我々写真部は、特別変わった人間の集団ではなく、ただちよつと一般人よりも個性が強いだけなのです。

写真部は、入学式から始まる、体育祭、輝松祭、卒業式などの松原高校の歴史を記録するという重大な使命のもとで活動を行っているのです。それにともない、生徒会、新聞委員会、そしてこのル・クールなどにも協力態勢をとっております。又、それとは別に、カメラを通して現実を捕らえ、映画紙の上に表現しているのです。たとえ、それが、どんなジャンルのものであるととも、これは、今の時代には一見、意味がないように映るかもしれませんが、今のハイテク全盛の時代だからこそ、かえって新鮮で、大切なものでないかと我々は考えています。写真とは、もつと世の中に接したものだと思います。

活動は自己中心的なものです。が、部会を行って部の統率を図っています。そう手軽にできるものではありませんが、方法を覚えると、自分自身で表現できるという何物にも変えられない喜びが得られると思います。そして自分に何か大切なものが残ると私自身自負しております。

（部長 二年D組小野田 康信）

フグブー部

『Kick Off』

えんげきぶ

私達 RUGBY 部は、顧問の橋本雄司先生をはじめ、三年生十一名、二年生十八名、一年生十八名、そして各学年二名ずつのマネージャー、計五十三名の部員から成っています。歌って踊れる人から俳優に似て人まで、ありとあらゆるかなり広い範囲の人間が集って、勉強の方は「X」ですが、練習や試合となると「O」に隠れていたのか「RUGBY」しか頭の中にしかない。というような、秘めた集中力と真剣な目を応援して下さる皆様にお見せするのです。

『Half Time』

「練習」だけ見るといいチームなのです。ただ、試合に勝つには、「試合数が少ない」(強いチームに比べて体力がない)という、少なくともこの二点が問題のようなのです。

春の大会は三回戦突破ができませんでした。秋の大会では、三回戦どころか、一回戦で負けてしまいました。

どんな試合の後も、次の練習では、自分達の失敗を深く反省して、次の試合に望みをかけるのです。『No Side』

——という訳で、私達は自分達の RUGBY が出来るチームを目指して、日夜練習に励んでいますので、どうぞこの私達を暖かく見守って下さい。

これにて、RUGBY CLUB の紹介を終わらせて頂きます。

RUGBY 部一同

生物部

「生物部」と聞くと何だか暗いイメージが漂ってしまふのが常ですが、けっしてそんなことはありませんでした。本当に動物好きの人が集まっていて、生物室の動物はみんな幸せ者です。えさやりやカエルの解剖も、実に楽しそうでした。

柔道部

やっぱり日本のスポーツだと実感です。顧問の樋口先生は全く顔をみせないそうですが、それでも部活動は勝手に進んでいました。なかなか気合いが入っていて、分刻みのハードな練習もみんな器用にこなしています。

美術部

時々しか活動がないようですが、たまの部活では、みんなデッサンの合間をみて世間話が尽きません。とても庶民的です。部員が少ないところがみそで団結力が極めて強く、文化祭も部全体で一つのテーマに向かうことができたみたいです。これからの活躍に期待しましょう。

硬式テニス部 (女子)

硬式テニス部の女子は大変人数が多くて、声を出して活気があり、やる気をみせていました。まわりでボール拾いをしている人もまじめでみんな仲が良さそうでした。

松校生のみなさん、こんにちは。わが松校演劇部(またの名を「ダベリ座」とも言う)を紹介しますと……

演劇部の発表に場は、年一回の「輝松祭」の舞台だけです。でも、部員みんなは、その一回に総ての力を出し切ろうと他の人が楽しく遊んでいる夏休みを、指をくわえながら見て頑張っているのですよ……

ちよつと、おしゃべりをする時間が長い時もあるけど……でも、そのおしゃべりは、舞台の上で先輩、後輩のわくをとり払うための大切なひとときです。

しかし、文化祭のクラブによくあるパターンの「部員不足」という重大な危機に、わが演劇部もさらされているのです。これを読んでいるその君、来年の輝松祭では、☆スター☆になれるかもよ。

さあ、演劇部に入って高校生活をエンジョイしよう!

P・S 未経験者大歓迎……

陸上部

陸上部は大変まじめに練習していました。動作も機敏で、みんな、和気あいあいと楽しそうに練習に励んでいました。

野球部

野球部はどの人が先輩か後輩かわからないくらいみんな友達のように仲がよく、楽しそうに、元気に練習していました。

アニメーション研究会

(部員から聞いて) 毎日が楽しく、先輩、後輩、男女間の仲が良く、活動中はみんな一生懸命に頑張っているそうです。

卓球部

卓球室の外からも声が聞こえるくらい大声をだして、練習していました。人数もいて、卓球台もけっこうあります。一二年生全員一生懸命やっていました。

男子バスケットボール

練習は、流れるような感じで、進められていました。思は、やむ時もあるけれど、全体的に、よく出ている、思いました。わりと楽しそうに練習していたと思います。

女子バスケットボール部

全体的に、よく声をかけあっていて、活気にあふれている感じがする。ボールを使った練習などで、自分達の番を待っている時など、他の人がやるのを真剣に見ていて、まわりから、注意やかけ声などで、盛りあがっていました。

剣道部

(練習風景を見ることができなかったため、部員に、普段の様子を聞いてみました。)

先輩、後輩の仲がとてもいいです。また、OBの人が、来ますが、必要以上に厳しいこともありません。練習への出席率は、一年生がすこぶる良いそうです。

バトミントン部

二学期はすでに二・三年が引退しているようで、一年生だけで練習していた。それでもみんなまじめにやっていた。どちらかというと楽しんでるようだった。少し気になった事ですが、後から遅れて来る人が多かったようです。

男子バレーボール

練習は、10人前後いた。始める時間がはやく、キャプテン中心にまとまって練習していた。声は、女子に比べるとやや出ていなかった。一年が出てくるのが、やや遅い。

試合結果報告

卓球部

第三十六回世田谷体育祭卓球大会

○鈴木(松原) 2-0 小松(世田工) ☆わが部のホープ

○榎本(松原) 2-0 西畑(農大一高)

○前島(松原) 2-1 西川(世田工) ☆一年生でデビュー戦とも言える試合で勝ったやつ。

関東大会予選 ○鈴木(松原) 2-1 福井(三田)

○今年の四月からの結果なのでありませんが、レベルの高い世田谷で、2位の実績をもつ先輩もいました。

バトミントン部

世田谷区民大会(夏) Dダブルス R一回戦

D・小川・新村 1R勝ち・2-1 2R負け・1-2

D・新藤・大田 1R負け・0-2

D・飯田・石井 1R不戦勝 2R負け・0-2

D・斎藤(千)・辻 1R負け・1-2

○みんな初めての試合だったので緊張したけれど、よい試合ができました。二、三年生の先輩方が来て下さったのがんばれたのではないかと、思います。

硬式テニス部 (男子) R一回戦

4月 世田谷大会団体戦 松原・0-5・東京学芸大付属
高体連 矢部2R 植松2R

女子バレーボール

声が特に出ていて、活気がある。人数も多数いて、場所が狭いようにも思えた。先輩が、後輩をよく指導をしている。

サッカー

人数は二十人近く、さすがに人数が多い。声がよく出ていて、動きもよい。OBの人に来ており、指導しているようだ。

ラグビー

人数がとても多いだけに場所が必要だが、校庭は狭く、野球、サッカーなどと重なる場所がある。練習は、気迫が感じられ、声もよく出ている。



8月 世田谷大会個人戦 矢部4R 川見3R 鶴飼2R

山中・提3R 矢部・平野3R 板本・鶴飼3R

9月 高体連新人戦個人戦

徳間3R 鶴飼3R 矢部2R 植松2R

山中・川見2R

硬式テニス部 (女子)

4月下旬-5月 個人戦 抜田3R 久田見2R

8月 区大会 安藤3R 久田見3R 藤村・久田見3R

9月-10月 都大会(新人戦) 久田見2R

練習試合 VS 赤城台 S・0勝3敗 D・3勝2敗

サッカー部

世田谷大会

対世田谷FC 八-一勝ち

二年生福津選手の自殺点で相手に一点与えてしまった。

対日大桜丘 一一-PK勝ち

春に行なった練習試合では大差でまけてしまったが今回は一年生の活躍によって同点に持ちこみ見事にPKで勝利を得た。

対東京農業大学第一高 二-二(延長戦二-〇)決勝
三年生の鳥居選手の敏速な動きにより先取点をピシツときめた。が延長戦で惜しくも涙をのんだ。

夏の大会

一回戦 対駒場東邦 二-〇 勝ち

二回戦 対千歳丘 三-一 負け

目からでる汗をふきながら会場をあとにした。

ラグビー部

春の大会

第一回戦(四月二十日) 対私立麻布高校八―四勝ち
 第二回戦(四月二十七日) 対都立秋川高校十二―〇勝ち
 第三回戦(五月三日) 対都立戸山高校〇―十六負け
 どの試合も前半は押しまり、後半は押されっぱなし
 でした。今後、前後半(五十分)バテないように体力作り
 をして行きたいと思います。

秋の大会(全国大会東京都予選)

第一回戦(九月二十三日) 対私立成蹊高校八―十七負け
 三年生最後の試合で全国大会出場経験のある成蹊高校
 にあたってしまったけれど、部員全員が一つになつて
 練習をしたために無得点の試合にはなりませんでした。

ソフトボール部

公立高校選手権大会(八月二十四日)

南葛飾	六	四	〇	二	〇	一
松原	三	二	〇	五	一	

相手校がみつからず、全然練習試合ができなくて、初
 めは緊張してしまつてたくさん点を入れられてしまつ
 た。でもだんだんと調子を取り戻し、一回ごとに点が
 入るようになって同点にこぎつけた。時間制の為抽選
 になり私達はみんな強運の持主なのか抽選で勝つてし
 まった。Luckyノ二回戦は十三―四で勝ち、三回戦は
 十一―二で負けてしまつたが、三回戦までいったのはソ
 フト部はじまつて(?)以来の快挙であります。

公立高校新入大会(十月十日)

向島商	二	〇	二	〇	〇	三
松原	二	〇	〇	三	〇	二

御覧のとおりよい試合でした。

野球部

夏の大会

第一回戦(七月二十日) 対都立北野高校

北野	〇	〇	〇	二	〇	〇	三
松原	〇	二	〇	二	〇	〇	五

昨年の夏の大会準優勝校に勝利。三年生佐藤選手のホ
 ームラン、二年生の数々のヒットが、勝ちにつながつ
 た。

第三回戦(七月二十六日) 対都立田無高校

松原	二	〇	〇	〇	〇	〇	二
田無	〇	〇	〇	〇	二	〇	三

都立田無高校とは初めての対戦。三年生小林選手のホ
 ームラン。逆転のチャンスがあつたが、相手チームの
 方が一枚上手だったみたい。

男子バスケット

松原58―日大二72

盆明けでみんなばつとせず、さえ
 ない試合をやってしまった。今度試
 合してもまた負けてしまうだろう。
 へへッ。

松原65―駒場学園71 夏休みにあつた世田谷大会だった。

松原66―日桜71

三年生が出場できる最後の試合だつ
 た。ちなみに駒場学園は、都のベス
 ト4クラスのチームとやつてもため
 るというとてもでこわいチームです。
 もうすこしで勝てたのに…

逆点したり逆点されたりして見て
 いておもしろい試合でした。H君と
 K君が、おもいつきり笑わせてくれ
 た試合でした。ちなみに、H君は退
 場しました。

女子バスケット

夏季大会

1回戦 8月25日(月) 松原44―久留米21
 2回戦 8月26日(火) 松原29―日桜48

練習試合

10月5日(日) 松原43―赤城台28
 10月11日(土) 松原40―千歳ヶ丘39

合宿を終えての夏季大会は、まずまずの出来だつ
 たと思います。2回戦目は負けちゃったけど、い
 い試合でした(負けおしみやありません)。

これからも、終わってから気分のいい試合をた
 くさんやっていきたいと思います。

千歳ヶ丘との試合はあまりよくない試合でした。
 ちなみに、千歳ヶ丘は2年生より1年生の方が強い
 そうです。私、個人的には、千歳ヶ丘とはとてもや

りにくく苦手な相手です。

日桜は強いと聞いていましたがやっぱり強かつ
 たです。でも、自分のペースになる時もしばしば
 あつてよかったなあ…。

女子バレーボール部

東京都総体兼全日本高校選手権予選

1回戦 松原15―8日本橋女子

12―15

15―4

2回戦 松原2―15南葛飾

1―15

夏季II部大会

1回戦 松原15―5八王子

15―4

2回戦 松原7―15吉祥女子

6―15

日本橋女子はとてやりがいのある試合でした。
 この調子でいけば南葛飾にも勝てると思ってい
 けれど、南葛飾の方が少し上だったので負けてし
 まいました。

八王子高校のミスが多かったので、難をのがれる
 ことができました。吉祥女子高校では、自分たち
 のプレーができず、吉祥女子に圧倒されてしま
 いました。

11月の新入戦では、これらの試合を参考にして、自分たちのプレーができるようにしたいです。

剣道部 (男子)

対私立駒場学園高校 3勝1負1分 結果勝ち

上村引き分け—江端勝ち—美舟負け—中村勝ち—永田勝ち。上村は硬さがあつたが、冷静な江端

ねばりの中村、切れの永田の活躍で勝つ。”
対都立駒場高校 3勝2敗 結果勝ち

土村負け—江端勝ち—美舟負け—中村勝ち—永田勝ち。上村の気迫で、チームに活気が出る。

剣道部 (女子)

対都立駒場高校 4勝3負1分 結果勝ち

勝ち抜き戦 青山負け—武笠負け—横山負け—根本引き分け—高山2勝—村山2勝。3連負

したが、根本が土め、一年高山が、次々相手を倒し、大将村山が、おちついた竹刀さばきで、2人を破りチームを勝利に導いた。

陸上部

◎第四支部予選 4月26・27日

決勝まで行けた人はいみませんでした、各自良い記録がでたようです。

◎第四支部学年別大会 6月28・29日

一年女子三人が百M の予選通過で準決まで

二年女子一人が二百M

の予選通過で準決まで

◎新人大会予選 9月21・23日

クラス紹介

1年A組

「やあおはよう！」とA組議長の小杉君(タコ)の登場。

さて私がこれからA組のメンバー紹介などしちゃいます。

No.1は阿部君。ラグビー部のホープ。No.14は田村君。父はカメレオン、母はインドの猿という異色の家庭。野球部のおぼっちゃま。No.22の溝口君。野球部ユレイ部員だよーん。No.18は野球部の森田健作こと廣瀬君、将来の4番バッター。彼は清原を超える!!とよく言われる。No.19福島君は野球部で、天使の輪マッシュ福島と呼ばれる。No.10とNo.15の倉戸君、寺内君コンビはねむり好き。No.17花市君は、A組の親分。明菜の家を探しに行ったという伝説がある。No.16の野田君は新田恵利の熱狂的ファン。No.4の井樋君は、文化祭で熱演!!実は大洋ファン。以上3人はバレー部。その他の男も、楽しい人ばかりだよーん。

次は女子。文化祭で熱演したシスター今日子こと飯田さん。彼女は演技派であつた。バドの埼玉県民、いつも明るい石井さん。その他のバドは新藤さん、坪井さんです。

ここで一言、やはり私としては、テニス部の女子の人たちは、サッカー、野球、ラグビー部などのためにぜひ、冬でもミニスカートをはいてもらいたいのであつた。岡田さんと鎌田さんと萱間さんお願いします。いつも陽気な、バレー部軍団の東條さん、遠藤さん、松本さん、武井さん。

二年男子一人が砲丸投げの予選決勝通過で本大会に残る。

男子四三四百MRの予選決勝で4位。

柔道部

対 日大桜ヶ丘 勝2負4分1 結果勝ち

栗林・柳沢・仲山・福原が相手の先ぼうに4人抜きにされた。しかし、当時一年だったので、仕方がない。高塚二勝一引き分け健闘する。

対 学芸大附属 勝1負2分2 結果負け

田中負け、高橋引き分け、福原負け、高塚勝ち出口引き分け、相手三年生で苦戦する。

対 千歳 勝3負2分2 結果勝ち

栗林負け、永田引き分け、山浦勝ち、宇田川負け、高塚勝ち、福原引き分け、出口勝ち。

栗林が一年生に一本負けしたのが笑いをよんだ試合はかろうじて勝った。



その他、A組の女の子は、可愛い娘ばかり!!
最後に、私、小杉は、これからもハゲでとします。

1年B組

一年B組は他のクラスから見ると一見まとまりのあるクラスに見られているようだが、うるさくて、不まじめで、落ちつきのないクラスである。担任は国語科の水谷先生でたいへんしっかりした先生だが、少し生徒は幼稚である。

唯一良い所といえば、明るいことで、しかしそれさえも、時には悪い点となり、授業中うるさくなつて、先生の声が聞こえないことさえある。(被害者・U君は語る)

文化祭では、仮面ライダー、と不思議の国のアリス(本当はこっちがメインのはずだった……)をやつて、お客さんに受けていたが、その成功はごく一部の人の成果であり、大部分の人はボーッとしていただけであつた。

——というわけで、文化祭の成功にかかわらず、今もつてクラスがまとまっているとは言いがたい。たぶん、このル・クールが出るころも同じであろう。

このままでは、松高の恥部になりかねない——などと思つてはいけない。

いつか我ら一Bのメンバーが社会に飛び出す時、この(ひじょりに〇い)経験は、きっと役に立つに相違あるまい。私はそう信じてやまない。

1年C組

我が一年C組の担任は、一年主任の橋本謙治先生、通称「橋謙」でとおっている。この先生は、松原高校ではかなり長くやっているだけあって、落ちついていて、生徒の気持ちをよく理解してくれて、びしっとするときには、ぴしっと、とても気持ちのよい先生だ。

次にこのクラスの紹介だ。

C組は、朝25分から30分の間にかんりの生徒がどたばたと入ってくる。そしてそうぞうしい朝とうって変わって授業中は静か……。なんてワケないだろう。かなり先生から騒々しいと注意をうけたことが度々。しかし、しかしなのです。最近では、いきなりみんなまじめになったのです。やっとみんな集中力がつき、緊張の持続が出来るようになった。たなあとつくづく思う。めでたしめでたし。

そして、C組は男女の仲も案外よく(変な意味じゃなく)、とおっても協力し合うクラスなのです。文化祭もみんな協力してくれてとってもよかった。

放課後も、みんなわいわいやっているようなのである。しかし、C組は他のクラスとの交流があまりないような気がする。もっと他のクラスの人達とも、仲良くして、楽しくできたら、とても楽しいだろう。

このC組も、昭和六十一年十月現在から数えると、残り五ヶ月でしかないものである。少しさびしいけれども精一杯五ヶ月が楽しくなるように頑張ろう！Fight！Fight！

1年E組

このクラスには「悪い」生徒は一人もいません。「頭の悪い」生徒もいません。ましてや「顔の悪い」ヤツなどいるはずがありません。そうです、一年E組は「良い子」の集まりなのです。

担任は平井先生であります。私達のよき父親のような存在で、悪をくじくスーパーヒーローなのです。

副担任は宗内先生であります。私達のよき母親のような存在で、先生の「宿題っ！」というお言葉は、私達を天に導くようなのであります。

そして「良い子」の集まり、一年E組のお友達、みんな個性が服を着ているようなのであります。学校行事等でクラスとしてのまとまりが必要とされるときが度々ありますが、そう簡単にはいかないのを、一人一人の個性が強すぎるせいだ、と無理矢理に思いこまなくてはならないのが現実なのです。

三年間、クラスがえをしなくてもいい、なんて言っている人もたくさんいます。もし、良かったら、我が一年E組に入ってください。

1年D組

一年D組デス。クラス紹介といっても、わからないですよね。——Dの人達は飛ばして次のページ——Eへ行きましょう。

——担任は英語科の渡邊稔子先生で、副担任は数学科の佐野孝志先生です。

——Dの特徴は帰りの学活——あの六時間もの授業が終わってさあクラブだ。さて早く帰るぞーというあの間のH・Rが長い！という事です。他の組の人に言わせると、学年、いや校内中で最も遅い、まだ学活やっている、どのクラスでしようとおもったら——Dでした、という事だそうです!! 体育祭ではクラス対抗リレーで優勝したし、輝松祭ではあの「プラネタリウム」をやって賞状までもらってしまいました。テストの平均点なんか高いです。

まとまっていると言えどもまとまっているのかもしれないね。

——Dの皆様変な文でごめんなさい。クラスの事って書くとうるとムズカシイもんなですねー。

——Dでした。おしまい。さようなら。

1年F組

我ら一Fにはこれといって特徴はないのですが、成績を除いたにぎやかさは、他のクラスには劣らないでしょう。特に授業中は……。とにかく先生がたの手をわずらわせていると思います。この場をかりて、おわび申し上げます。

さて、クラスで現在こまっていることは、遅刻の数です。朝、八時二十分ごろ登校してくると教室はガラーンとしていて三、四人くらいしかいません。他のクラスは三割、四割はすでに登校してきています。二十五分あたりにドツとやってきます。当然のようにチャイムが鳴り終わってからやってくる人間が出てくるわけです。

次に、クラス全体の性格は、どちらかと言えば明るく陽気な人が集まったクラスだと思っています。その陽気さは我がクラスの長所でもあり短所でもあるのです。ホームルームなどは、どのクラスも同じだと思えますが、とにかく話し合にはならず、なかなか決まることも決まらないのです。しかしそんな一Fでもピンチになると、みんな変わるようです。輝松祭のラスト一週間のおいこみはすばらしいものでした。

最後になりましたが、担任は化学の山崎先生で副担任は生物の中平先生です。

一Fは細かな問題はあるにしても、クラスとしてはなかなかまとまりのあると思います。

二年A組

二年A組というクラスは松高らしいクラスといえる。そのため授業中は当然のごとく騒がしい。普段怒らないU先生を本気で怒らせてしまった事もあるのである。

担任は数学科の小野先生で、いつも白衣を着ているまじめな先生だ。二学期以降はホームルームの度に「遅刻が多いので早く来るように」といった事を言っている。副担任は国語科の柳先生で、今年小笠原高校から来たという、異色の先生である。

このクラスは普段、まとまりがあまりよくなく、つかみどころのない感じなので、クラス紹介は書きにくい。しかし、文化祭では、そういったものを全く感じさせないくらい盛り上がった。そう、二Aはあの「ベストキッド」の劇をやったのであった。本格的な練習は九月からだったが、客席はいつも大入り満員で、劇は成功を収めたのであった。それから二Aは六月に来日した留学生マット・スミス君がいたクラスでもあったのだ。LHRの時間にバレーボールをしたり、お金を出しあってバスケットシューズを買ったりしたこともあった。

このように、大事な時には結構よくまとまるクラスというのが二Aの特徴だと思う。尚これは書いている人間が勝手にそう思っているだけなのであって、その実態は今でもまだ明らかではない。

二年C組——2 NEN CGUMI STORY——

うちのクラスはとにかく遅刻・欠課が多い。みんな体が弱いとかいうわけじゃなくて、サボリなのだ。でも、そういうクラスはいざまとすると強い(◎)その例は文化祭である。最初のうちはみんな参加せず、ヤベエと思った作者だが、九月に入ると、F組に刺激されてか、いきなりヤル気を出し、毎日夜遅くまでの特訓が始まった。これはみんなが一丸となった。たあんど(丹治さん) or 山崎さんや西野の踊りのシーンは、うちのミュージカル、WEST SIDE STORYのメインだった。作者も内藤さんと一緒に、主役をやらせてもらったが、内藤さんは可愛いと評判だった。そして練習がつまらなくなると、うちちゃん(内田)が、ガス工事のおっさんのかっこうをして笑わせてくれた。

文化祭当日はみんな燃えた。客も満員御礼——その結果演劇部門の最優秀賞を獲得した。それもこれもみんなの努力、まとまと強いC組の力だが、作者が特筆したいのは世界史係の、プッツン松井ちゃんに心からありがとうと言いたい。でも、成功した一番の要因は、C組のみんなががんばったから。来年も角先生を中心としていいクラスにしようぜ!! ◎あとがき↓作者はC組が好きなので、この文章を引き受けたが、ル・クール副委員長のおつし!!原稿料よろしく!!

二年B組

僕がこれから書くことに誰か反論してください。僕らにとって、クラスって一体なんなんでしょう?

よく文化祭をきっかけにクラスが一つにまとまった、と言います。本当でしょうか。僕はまとまったとは思いません。まとまった気がした。ただ、それだけだったのではないのでしょうか。うちのクラスがいい例です。文化祭で、なんとか一つの劇を作ることが出来たけど、練習に來ない人はいたし、みんなバラバラ好き勝手だったと思う。

なぜ、バラバラになるのか。クラスのみんなの仲が悪いというわけでもない。かといって、仲が良いわけでもない。気の合う人が少ないのだろうか。でも、話してみると結構気が合うこともあるんじゃないかな。

こんなクラスだけど、みんなをまとめようとした人達がいきました。結果は……。一部の人だけで無理なのです。みんながまとまりたい、楽しいクラスにしたいと少しでも思うなら、自分が動いてください。一人一人が動くことで、みんなが動くのだから。こんな事書いても、結局みんなにとっては大した問題じゃないだろうけど……。本当はもっと他のクラスのように自分達のクラスの良い所を書きたかったのに、クラスの良い所が僕には見えないのです。誰か見つけてください。と、かなりクラスを批判したのですが、そんなに絶望しているわけではない。これから、卒業までには十分時間があるのだから、少しずつ、みんなが仲良くなっていけたらいいね!

二年D組——2—D! 2—D! 我が2—D!——

「ぼつ」と取りだしましたるクラスは、我が2—D!!! いつでもどこでも、「ぼん」と、賑やかな雰囲気を提供いたします!!! 売どころは女の子の「きやー」だか「わー」だか、とびきり大きな感嘆の声であります!!!! 皆さまも一度、2—Dをおのぞきあそばせ♡ ♪ ☆

ところがひとたび花開きますれば、なっかなかしぼんではくれないのが、「うーん」と、悩みの樋口 teacher でございます。——あまり悩まないでくださいねっ!

「とつ」とつとつとつ「賑やかな反面、さみしーよつ」って叫びたくなっちゃう朝でありますつ。「てーけつあつ」って御存知かなつ?それって、長生きできるといううわさ♡ちよっぴり嬉しく思うのであります。

「あつかるーいの」たす「さみしーの」かける「はんぶん」「いこーる」うちのクラス2—D「
という「どーしき」が成りたちそうなの
我がいとしきクラス「2—D」でありますつ!

二年E組

我等が二年E組のお話しをしてみませう。

まず、何だかんだと言つても、仕方が無いんで、とにかく自慢できる限りの自慢をしていこう。

自慢は、学校一クラスがまとまってるって言う点だ。その最もいい例が、輝松祭じゃないかな。何て言つたつて結果を見てもらえば、一目瞭然。

「総合・最優秀賞」

この言葉を初めて聞いた時は、全く信じられない思いだった。その思いは、クラスのみんな誰れもが思ったに違いない。それは、そうだ。何て言つたつて、当日の午前中まで練習・練習。どうする、どうする、いいや、ぶっつけ本番。もう全ての役者がドキドキ。裏方はオロオロ。ところが、実際にやってみると「完璧」。その後の三回の公演も全て成功。途中、自分の場面を忘れちゃう奴とか、セリフをまともに言わない奴。いろんな奴がいたけれど、結局は、やっぱりE組だなぁって感じ。そんな風にしてやつたもんだから、「最優秀、愛と青春の旅立ち」っていわれた時は、俺達も。クラスに戻って賞状を見せると、男子からは大歓声、女の子からは泣き声。輝松祭を境にして何かが変わつた。そう、今まで点と点のつき合ひだった51人が一本の線で結ばれ、今ゆつくりと太い線になっていると思う。いや確実に太い絆で結ばれている。今、このクラスの議長を出来た事を誇りに思っている。最後に一言、輝松祭の裏話を聞きたければ、いつでも二Eの教室にどうぞ!!

二年F組

うちのクラスってどんなんだろう。

担任の馬場先生は、いつも笑顔をのぞかせている。どうしてかしら。少し妙。

きつと、先生の周りに妖精がいるんだわ。年は少々若く、この前二人目の赤ん坊が生まれた先生は元氣いっぱいがんばっている。

生徒に同化したいの？ 同化してるの？

(分らない。)

だからなの？ いつもクラスがほのぼのしてるのは。

授業中、ぼーっとしてるわ、多くの人。

どうしてかしら。少し妙。

きつと、頭の中に麻酔虫がいるんだわ。

そんな私たち、この前文化祭に、映画グリースのビデオの製作で、すっごくがんばつた。

何を考えてるの？ 何も考えてないの？

考えてるなら、個性で素敵!!

(分らない。)

8:25 教室には、ぼつぼつと人。窓から入る光が演ずる遊戯に酔っぱらってる私。8:30 1日のドラマが始まり、みんなは駆ける。3時間目終わりの号令と同時に食欲をいやす不思議な箱が飛び出す。異様な静けさは、食を与えるものへの感謝である。

いいんじゃないかなあ。このクラス。

三年A組

卒業にあたって皆さんに一言。

荒尾孝一……BYE! また遊ば。 I love

石井 徹……アタタタタ アタ!! オレは誰にも負けない。

岩藤道幸……これからも何かいいことがあるでしょう。

岩永啓吾……飛んで火に入る夏の虫 啓吾

大志田昌樹……じゃあね!! 凸凹△

奥山通朗……バカ!

金子高之……虫大好き!

小泉嘉男……先に行く! 後からついてこい!!!

甲賀秀雄……血のにじむような努力が大切。

河野賢一郎……さようなら、お世話になりました。

酒井 浩……

神保太郎……わあ、卒業だあ。

鈴木 毅……先に行つててくれ

芹澤 浩……じつと手を見る、足を見る

高頭誠一……そして気がつく、まっくらけのけ

田中賢一……山暴漂里藩一議品齒一籍保敵語識

田村久雄……ピーという発信音がなりましたら……(略)。

中西孝友……しばらくそのまおまち下さい。

平野則人……最後までミワ君を理解できなかった。力は愛だ。

宮田龍七……人生楽ありや苦もあるさ……以下省略

三輪達也……みなさん、肉を食べたら野菜を食べて長生きだ。

虫賀理夫……僕は卒業できてうれしいです。(虫)

目黒照章……そういえば、卒業なんですわね!!

秋山 直美……私はね、ソロコレート大好きなの♥

池田 真紀……はつきりいつて、ライオンズびいきです♥41

太田さおり……花の女子大生になったらおとなしくします。

岡崎 敦子……短かった三年間。卒業うれしいな。

木田 紀子……卒業したら夏彦に会いに行く。

木村志津江……いつか飛行機に乗りたいたいよ。

小林 文子……神様おねがいだばくはあの人に会いたいんだ

佐藤 優子……もうすぐ卒業、うれしいです。

佐野 淳子……青春は永遠ですものつて。ルビーが欲しいの

柴田 信子……卒業したら……うふふつとアルコンに行こう

伊藤 真紀……今日の君は泣きたい気分なのと目をふせてた

滝沢 友香……卒業後はどうしようと途方に暮れてしまった

竹内 朝海……私のお兄ちゃんはサッカーがうまいんだよん

館野菜々子……

坪川由美子……うん。つと。これは悩みのぼーず。つぼ8

中川 美紀……ナイスピッチ渡辺久信! やっぱライオンズ

長嶋 洋子……和漢のルルはきくそうです。

長橋 奈美……「さらば青春の光」

中山 彩子……広島◎津田くん出浩二さん みんな万歳!

羽田野由紀……卒業したら大人っぽく色っぽく、ウフン♥

馬場かおる……いつかはとめどなく「わたし」に近づきたい

宮沢 明子……ブラジル・ブラジル。

吉田千恵美……うれしい、来年も勝つぞ!

和知 広美……へへん。来年こそ巨人軍の日本一さ。

三年B組

私達三年B組はごく普通のクラスだと思えます。クラス替えをして一年半たっていますが、あんまり雰囲気は変わっていません。平和ですね。

さて、文化祭のことですけど、三年B組は「迷路」をやりました。パンフレットに案内文(?)が載らないというアクシデントがあったにもかかわらず、にぎわっていました。中にはペコちゃんあめほしきに、何度もきてた人もいたようでしたが、あの迷路は去年好評だった「お化け屋敷」の経験がいかされていたんです。とはいえ、準備はほとんど間際！できないんじゃないかと心配したのですが、さすが追いこまれると強い！あれよあれよというまにできあがったのでした。そうそう、あの一たん外に出るというアイデア。なかなかのものだったでしょう。女の子でも苦勞せず降りれるように考えたんですよ。体育館の舞台から階段を借りてきた大胆さなんか泣かせるでしょ。でも二日目は雨が降っちゃって残念でした。水鉄砲の決闘場面では、日頃のストレスの解消にもなったんじゃないでしょうか。(風船わって解消した人もいたみたい)

次に、担任の先生について。うちのクラスの担任は英語の先生で、授業の速さには定評があります。井上先生です。この授業の速さゆえに泣かされている私たち…。たとえば二期の中間テスト。もう毎年恒例となりましたが(まだ二年目だけ)一学期にやったところがでてしまうんです。

三年C組

3年C組のクラス紹介文を書くことになった、井上です。どうして僕が書くことになったかというと、生徒会誌編集委員になったからです。僕はもととは、評議会の委員だったのに、生徒会誌編集委員になる人がいなかったんで、僕がやることになったのです。どうしてこんな書き出しをしたかという、実は僕は、生徒会誌編集委員になりたくはなかったことと、この文を書きたくないことを、この文を読んでいる人にわかってもらいたかったからです。

もともと文章の才能がない僕は、クラスの紹介文など書けるわけがありません。

だから、C組のみんな、ゆるしてください。この原稿を書くのを手伝ってくれようとした、林くんも、短気の入山くんも、えーやだーのあやちゃんも、のび太くんの松村くんも、アメリカ帰りの丹美さんも、まじめな青ちゃんも、陸上部のおばちゃんも、悪の橋村くんも、変な髪形の志鎌も、きちようめんなせんちゃんもおとなしいトモちゃんも、サッカー部の山田くんも、おかあさんのキリちゃんも、いつも腕組み白土くんも、ドラマーのタケちゃんも、バトミのかなえちゃんも、軟テのアユちゃんも、えーとの大沢くんも、大人っぽい淳子ちゃんも、ビー部の安ちゃんも、全日本(男)バレーのエミコちゃんも、男バレーの田上くんも、うるせえオギノも、同じく出口も、おっとりマユちゃんも、笑ってごまかす清水も、議長の紀夫も、アナーキーのカヨ

あの長い夏休みを経て、もうすっかり忘れている生徒達をおかまいなしに…。現実はずらいんですよね。ところで、井上真澄先生は女性です。一児の母でもあるんです。文化祭にお子さんを連れていたのを見た人もいるかもしれないが、かわいい女の子なんです。似てないなんて声もあがっちゃってましたが、先生はニコニコで、家ではやさしいお母さんみたいです。

そういう先生と生徒達のいるクラスです。でも生徒達の方はなかなか全員そろうということがありません。いつも誰かいないのが朝のS・H・R。よく先生に「遅刻をしないでいらっしやい」と言われます。それから、みんな教室から消えるのがはやい。帰りに、まだ隣のクラスには結構人がいるのに、うちのクラスはもういない…。なんでなのかなあ。そんなわけで、よくわからなかったかもしれないが、クラス紹介を終わらせていただきます。



ちゃんも、ロリコンの佐藤くんも、鳥山のヤスコちゃんも、水泳が嫌いな前田も、ヤクザな宇佐美も、ゆきみだいふくフミエさんも、いつも寝ている徳川くんも、あぶない貫井さんも、マジジャンの伊井くんも、副議長のエリさんも、おつちよこちよいの中沢くんも、ソフト部のカズミちゃんも、バイク野郎の川上くんも、声が高いレコタも、ボソボソの秀樹も、大ボケのチハルちゃんも、野球部のマネージャーのタマエちゃんも、硬テのオチャルも、バトミのケイコちゃんも、今はなき大類くんといとちゃんも、みんなゆるしてください。

てなわけでクラス紹介は、できなかったけれど、イタズラ電話などしないよにね、林くん。



二年D組

三年間で一番印象に残ったこと。あれ、これ、それ。

——自転車のジャックナイフ

テニスに明け暮れてしまった三年間

合宿で行った北アルプスの雄大さが忘れられない

生徒会をやっていた頃が一番楽しかったこと

三年間、ラグビーへの愛を貫き続けたこと

レオンとレオンのリー兄弟。

パス一回

三年間、ラグビーを愛したこと

よくもまあこんなにあそんだもんだあーねー

ポンセの大暴投……。

三年の後夜祭でみんなでわいわいさわいだこと

ねえ、レモンは心臓によく似ているよね

どうひやあーんうげえっ！ぬうばうーふいっ

さかまきっ！あんだ昨日どうしたのっ！

まぐれサーブスエースをとった時の苦笑い

三年でどうやら卒業できそうであること

志賀高原の雪が結品の粒でふっていたこと

麻雀で、国士無双を10順以内につもった

ギャンブル、酒におぼれたこと

Want a lot now.

「さかまきっ！ふじい！みくも！」

修学旅行に行ったこと

相原

浅香

池亀

石井

井上

大辻

大矢

桂

加藤

金沢

亀田

黒田

上妻

坂巻

田中

土園

中川

野沢

藤井

増島

三雲

水野

Guerilla (f) ら ぐりら

松高に来て、色々な友達に会ってついでます

文化祭前の部活で修羅場を経験したコト

沢山の良い友人を得て、楽しく過ごせた

一年のクラブ合宿を最後までがんばり通せたこと

妙な友達と変な思い出ができてしまったこと

私は三年間とても元気でしたわさ

ボクは死ぬキミも死ぬみんな死ぬおしまい

クラブに入って汗かいて夏に優勝したこと

私は思い出がいっぱいあって書ききれません

たくさん楽しいことがあったこと

演劇を10年続けて、部が賞をとったこと

友達がいっぱいできて、とてもうれしかった

素敵な友達と幸せな毎日を過ごせたこと

友達と小説の同人誌を出したことです

おもしろい人が沢山いたことだと思ふのねん

三年間——楽しい時間をもてたこと

夏になると必ずある水泳には悩まされた

すばらしい友達と過ごした松高生活の全部

明るくてちよつと変な友達がたくさんできた

友達が沢山できてとても楽しかった

一生つきあって行ける良い友達ができた事

——生のさばは私の胃に合わない——

友人七人といっしょに海へ行ったこと

ぬるま湯に、どっぷりつかつた——三年間。

たくさんさんの気の合う友達と出会えたこと

宮城

武者

新井

稲毛

磯

蛇子

小野

川又

佐藤

末永

鈴木

周藤

常本

友永

中川

野島

浜村

本多

本間

前田

三瀬

森

森

森川

横倉

吉田

渡辺

三年E組ひとり一言

井浦 康吉 とても変化に富んでいて楽しかった。

伊藤 嘉英 「紅茶でも飲もうっ！」

岩崎 隆浩 楽しい夢をくれた人達に今・ありがとう……

梅原 卓 走れラグビー部遠いゴールポスト目指して。

大坪 光弘 朝のラッシュ大変だった

菊谷 圭介 たのしかったあの思い出も今はもう届かない

小林 直樹 すばらしい三年間を送ることができた。

坂上 康成 たくさんの素敵な友達に会えて最高！

柴田 章生 卒業。もう二度と校門をくぐることはない。

鈴木 健 夢がこわれたとき、俺を慰めるのは松高だ

友納 哲行 理由なんかなかった。

中川 泰成 何か変な学校だった

永瀬 宏隆 あつという間の3年間だった……

野村 健 平穏無事な3年間でありました。

福田 覚 「EPOに来てほしかった。」

藤沢 裕毅 素敵な3年間を過ごせた

古屋 誠孔 やがて私の時代が来る。

松尾 朋英 三年間とても楽しくていい思い出になった

山口 雅史 ウジへ、明日1時に109の前ネ！

山崎 二郎 素敵な友達との思い出を胸に秘め、今……

吉田 茂樹 18年の人生でこの3年は大きかった

「高校生はいい！！」

阿部 靖子 きりーっ b.y.桃尻

荒井みゆき あー おもしろかった……。

伊佐多美子 思い出ですね。

岡部 多恵 ありがとうっ！

小川 智子 お洒落なやすさん3年後に会おうね

柏谷 綾子 「お洒落」って「おさけおち」でしょ。

嘉茂のぶ子 幸せってなんだ (真砂瑞枝に続く)

川合 麻己 とても楽しゅうございましたらうる。

草島 康子 とおつてもたのしかった。

斎藤 幸恵 いとうせいこうさんがよい。

佐藤 りた 牛の中じゃあん。

鈴木 治子 小春おばさんって、あたしのことよ！

只木美奈子 三年間なんてきつとこんなもんよ！ネッ。

田口真紀子 たんぐちで てえんぐち

友杉明日香 たのしかったYOっ！

中野 麻紀 ひやうふつと三年間がすぎてしまったに——

中村 祐子 お友達、みんな大好き！

新村 弘子 あまがえる負けるな一茶ここにあり

堀井 利子 松高は私の性格を形成した所です。どうも。

真砂 瑞枝 ポン酔しようゆのあるうちさ

三村 絵里 三年間松高ですごせとてつてもうれしかった。

村上美智子 ぱべっ PON ぱぶっ PEN

山岡 陽子 やまようやまよう ややややまおか

吉田 成子 ポボンタ タンボポ

以上3年E組46名

三年F組 — 三年Fクラス 彼ハ昨日ノ彼ナラズ —

ある日、松原が漂流教室になってしまったとする。三Fはクラス全員生き残れるだろう。そういうのも、このクラスの方々は強い。私は美しい。ところで、私は考える、それゆえに、私は存在する。私が三Fに転入してきたの初めての挨拶の時に金縛りにあいました。クラスの方々が、美しすぎる私を目を皿のようにして見詰めるから……。

このクラスの方々は、教室へ入るとお早うのキスをする。これほど私を喜ばせる事はありません。先日は三人の方に唇を奪われてしまい思い出で……ああ身が熱い。このクラスの方々は、大変勉強熱心でいらして授業中は殺気だった険しい目をして怖いほどです。首席の私でさえ、重圧を感じます。クラス平均評定45、平均偏差値67、平均知能指数二百というエリートクラスです。有名私立大学推薦入学二十余名、東京大学数名、京都大学十余名が内定しております。尚、私は卒業と同時に渡英いたしました、ケンブリッジ大学へ留学する事になっております。

このクラスの方々は、文化祭が好きなようで、「ウルトラクイズ」なるものを催しました。その思い出は、日を重ねるごとに輝きを増すことでしょう。思い出はその胸にしまっておくと、ほらこんなにも温かい。私の事をみなさんは、クールでセクシーだとおっしゃいます。とても正直な方達ばかりです。

このクラスの方々は、担任の河合宏吉先生を大変慕って

いるようで、見る者の目を和ませてくれます。大サンショウウオのような目でクラスを見守る河合先生は、若干三歳で化学の世界に入り、旧制中学時代に芥川龍之介と出会い、数多くの女性と関係して現在に至っています。唯一の外国旅行といえば、兵隊として東南アジアへ行ったことぐらいです。ビルマにおいては水島青年との悲しい離別もあったようです。先生、私達と一緒に今を生きていきましよう。

このクラスの方々は、全員が全員とっても妙です。

何が妙かというと、何かが妙なんです。私はこのクラスを研究し続けているのですが、今一つはつきり解明されません。授業中にポルターガイストは起こるし、窓から風は入ってくるし、自習や休講は少ないし、スズメ蜂が襲撃してくるしといったところがとても多いのです。ですが、いざとなったら一致協力して団結し、限らない能力を発揮します……などという嘘をつくわけにもいきません。

このクラスの方々は次のような事をよく言われます。「この一球は唯一無二の一球なり。されば心身をあげて一打すべし」と。このような事をおっしゃって人生を悟っているフリをよくするのです。

そういったところで、この文章は全くクラス紹介になっていませんでした。

それではみなさんのおハガキ、お待ちしております。

編集後記

生徒会誌編集委員長 白石 拓也

僕は、一年生の時楽しそうな委員会に入ろうと思っていたのがこの生徒会編集委員会でした。委員会に入ってから委員に出席しても雑談をしているだけで、これをやりなさいといわれた事だけ、イヤイヤやるといった感じでした。しかし、去年は二、三年生の先輩方が、がんばってくれたため、毎年三学期の終りに出していたル・クールを二学期の終りに出す事ができました。

今年も誰かがやってくれるさ、と思い、生徒会誌編集委員会に入ったのですが、二年めという事もあり、委員長という最も重要な役に選ばれたので、ではがんばってやってみようと思ったまではよかったのですが、人をまとめるのを得意としない自分にとって、ル・クールという雑誌一つ作るのもとても大変な仕事でした。

今年は、特に最近生徒会誌とは名前だけで文芸誌のような内容になってきたル・クールを生徒会の活動を中心とした内容にして、考えるル・クールに変えていくという転換がありました。

一年生にとっては、初めて見るル・クールというものを変えるといわれてもどうしてよいかわからなかったと思います。しかし、今年の一年生は、積極的に新しいル・ク

ル作りに参加してくれたのでとても助かりました。三年の先輩方にも勉強で忙しい中をル・クールを作るために無理にがんばってもらいました。そしてできたのが、この新しいル・クールです。読んでみてつまらない。内容が硬いなどいろいろあったでしょうが、自分達なりに出来る限り努力したつもりです。是非

最後まで読んでください！

また、ご意見などありましたらより良いル・クールを作るための資料にしますので委員会の方へお寄せください。

生徒会誌編集委員会を三年間務めて

三年A組 館野菜々子

私はこの委員会を二年間やって色々お仕事をやらせて頂いたが、自分は思うにこの委員会はこの間にずい分大きくなった。沢山の原稿を幹部の偉い方々(委員長その他)のみの手によって作られ雑な感じのしたルクール、あれは二年前の遠い昔。毎週の委員会にもまとまりはなく、一般の委員は殆ど意見も何も交換しあわなかった(卒業した先輩方には申しわけないが)。その次の年、あれではいけないという訳で、委員会が改革されたという感じ。出欠をとり、一学期は役割分担、二学期は原稿をかくというようにしっかりと計画を立て、一応その計画通りにできたと思う。こ

の時、顧問の鶴田先生が、先輩から何も授からなかった私達に、それこそ一から、本当に親切に色々教えて下さって初めて満足のゆくルクルを完成することができた。その為の委員会も毎回毎回内容の濃いものだった（あれでやっと普通の委員会という感じ）。今、この委員会の会合がスムーズに進んでいるのも、去年いらつしやった鶴田先生が丁寧に指導し、忙しい中を大変色々とお世話して下さいのおかげだと思う。去年の委員長の不熟者の自分に沢山のことを手助けして頂いたのが去年の委員会を良いものにして、それが今の委員会に透明な形で残されていると思うし、自分が今こうしているのも先生のおかげだと思う（一年生は去年一年間しかいらつしやらなかった鶴田先生のことを知らないだろう）。

また、去年委員の人達が色々意見を出してくれ、協力をしてもらってみんな一人一人が仕事を務めてくれたのはよかったと思う。

今年はといえば、去年の委員会の延長線という気がする。まあそれはそれでよろしいのだが、二年生の委員長たちや三年生の人達ばかりで片づけているという気がするのだが、一年生の人達が積極的に喰らいついてきてほしい。何故ならば、来年になると一年生の君等が中心になってとりまわさねばならないからだ。だから色々、原稿や内容のこと、何から何までのルクルの組み立て、更には印刷業者の方々との打ち合わせ等についても鼻を突っ込み先輩達から色々教えてもらうのがよい。さもないければ私の様に

編集委員の「ひとり一言」

一年

- A 組岡田 応援団長さんの所に行った時、緊張した。
鎌田 とっても疲れてしまいました。
B 佐藤 原稿を書くのがたいへんだった。
鈴木 結構、楽な仕事でした。
C 菅野 たいへんなんだと実感した。
是枝 もう、やりたくないな……なんて思っています。
D 井上 いろいろ迷惑かけました……
岡田 こういう原稿は初めてで苦労しました。
E 森 原稿はみたくありません。
古田 原稿用紙がますますきらいになった。
F 藤田 お世話になりました。
益子 御苦労さまでした。

二年

- A 組小沢 仕事をあまりやらなかった。
B 前野 こんな委員会もういやだ。
C 酒井 一生懸命やったから、みんな読んでね。
D 伊藤 疲れた……この一言以外出てこない。
池田 楽しかった、また来年も書きたい。
E 大石 校長先生の所へ行ったり結構、大変だった。か

相当苦労してしまう（一年の時はわかったつもりでも二年になるとわからない事だらけだった）。まあ、この委員会に一年の時入ったら殆どの人々は翌年入ってこないが。しかし三年間色々働いたが、自分にはまだ納得のゆかない所が数々あることに気付いた。去年も一昨年この年刊誌について悪い批判しか耳にしなかった。今年も多分悪く言われる方が多いだろう。勿論全ての人に好まれるなんて不可能だが。その為にも、委員のみんなは少し早めに原稿を書く準備をし、締切を破るあけく印刷所で校正等ということを経験し、締切を破るあけく印刷所で校正等ということを経験し、締切を破るあけく印刷所で校正等……



- F 井上 なり中心になつてやったつもりです。
書記という役につきながら何もしなくて申しわけないです。これを反省してよい子になります。

三年

- A 組伊藤 さあてねえ……編集後記と言われましてもねえ……
館野 All my toils have led to my current existence.
You folks, hold out!! 生賢館野
B 鈴木 アンケート集計が大変でした。
田中 三年生にとつては、とても大変な委員会でした。
C 井上 さぼってばかりで、すみませんでした。でも新興宗教みたいなんだもん。
D 蛭子 やることはやった。なんてよい子のあたし。
常本 来年のみなさん、がんばってね！
E 須藤 原稿は早くだそうね。集めるのがつらいから。
堀井 今年、一番の楽しい思い出になりました。
田中 三年生には荷が勝ち過ぎたと思う私です。
F 谷岡 三年には、たいへんだったかな！
顧問 とつても大変だったけどおもしろかった。
編集委員のみなさん、ご苦労様でした。二年生、一年生の委員の人たちは、今年着手したル・クルの大転換を来年以降も引き継いでより充実したル・クルを作っていて下さい。
最後に、写真提供に快く応じて下さった、小野田君、酒井君をはじめとする松高写真部の方、ありがとう。

ル・クール 35号

昭和61年12月25日

発行 東京都立松原高等学校生徒会

編集 生徒会誌編集委員会

顧問 岡野美千子

印刷 株式会社フォレストアート

